

近代日本と“翻訳”——本格研究の潮流はここに始まった。

明治翻訳文学全集

《新聞雑誌編》

全 50 巻・別巻 2

《翻訳家編》

全 20 巻

より豊饒な研究の成果が
実らんことを…………… p.2

編集方針…………… p.4
巻構成…………… p.5

全収録作品目録

(原作者・翻訳者・年代)

《新聞雑誌編》…… p.6

《翻訳家編》…… p.18

価格・刊行一覧…………… p.22

原作者名索引…………… p.23

全巻揃
残部
数組

(2025.9)

学術資料出版

大空社出版

より豊饒な研究の成果が実らんことを

◆ここに掲げる文章は、『明治翻訳文学全集』『新聞雑誌編』および『翻訳家編』編集委員会の名のもと、発刊・完結時に発表された刊行言の再録です（はじめに・あとがきなどより、一部省略）。本全集の企画意図、またこのあと陸続と成った膨大な資料・目録・事典類（4頁参照）が生れる精神の「骨格」は、ここにすべてが語られていると言えましよう。すでに20年以上を経ても、いささかも古びないこれらの言葉を描いて、この偉業を説明する術はないと考え、再掲するしだいです。どうかじっくりお読みいただけますよう。編著者の願いはこれらの資料から、より豊饒で「独創的な」研究が生まれることです。

学術資料出版 大空社出版 2018年12月

明治翻訳文学全集

《新聞雑誌編》全50巻・別巻2

刊行開始

1996年6月

明治期日本に滔々と押し寄せる西欧近代は、それまでに

日本人が経験してきた知的世界を超える何者かを直感させた。そのときは「怒れる羨望」とでも表現する感情を抱くこととなる。とりわけ、文学や芸術の世界における感情の苛立ち、当初は沈黙を余儀なくさせるほど激しく、西欧文学の受容が緒につくのは明治の十年代中葉にまで待たなければならなかった。その方法ほどの領域でもそうであったが、まずは西欧近代の複製と模倣であり、文学においては西欧文学作品の翻訳・翻案から始まる。

そして、翻訳や翻案を通して西欧文学を模倣しようという欲望は、同時に独自の文学を主張し、西欧文学から自立しようという欲望を喚起してきた。この事情の背後には、近代世界の画一化と国民国家の同時性という二面がいつも闘ぎあっているのだが、近代社会の「国民文学」の発生を担ってきた感情がここにある。近代文学は、この意味で、比較文学から生れてきたといえる。

島田謹二先生は半世紀を超える比較文学研究の結論として、こう述べられた。

2001年5月

《新聞雑誌編》完結

『明治翻訳文学全集』『新聞雑誌編』全五十巻を刊行し続けた五年間は、反省的に顧みれば、日本近代のひずみが誰の目にも見えてきた時期であった。学問研究も百年余に先学が築いてきたものだけを受け継ぎ豊かにすればいいという時代は終わった。私たちが直面している諸問題に即して、営々と築いてきた学問成果を再構築していく時代に至っている。そのような時代的な要請にこたえようとして、私たちは日本の近代の橋頭堡となった「翻訳」を洗い直し、日本の「近代」とは何であったのかと考えるための資料整備に全力を注いだ。

なぜそのような作業が必要であると考えたのかといえば、関東大震災に遭遇し明治期の近代遺産を明らかにしようと努力した吉野作造を中心とする明治文化研究は近代を是認しこれを顕彰する地点から始められた。それは旧時代に比して新時代が限りなく明るく見えた時代を生きてきた人々の当然の思いであった。これに反し、私たちは「西洋近代」を明るもののばかりと見做すことができなくなっている時代を生きている。近代システムのひずみが日本においては明治の出版の中にすでに内蔵されていたことが明らかにされている。研究はいま「近代」の光と影を相対的に明示しなくてはならないだろう。すなわち、明治期の研究は自らの都合のよい遺産のみを顕彰するのでは済まなくなってきた。影を強調するということではなく、明治期に生きた日本人の社会現象を相対的に捉え直す必要に迫られている。その総体の中からその後の日本人が何を打ち捨て、何を顕彰してきたのかを再検討する必要がある。このことは些末な事柄が重要であるということではなく、現在立っている位相を相対化する遺産として欠かすことができないと考えるからである。

「明治以降、最近百年間の日本文学はいつもモデルが西洋にあった。そして結果的には西洋にあったモデルを真似ると、ほとんどつねに歓迎された。……局限すると、最近百年間のわれわれの文学の大動向は、高い価値のものを目指したのはたしかだけれども、現実にはこういう方向と、こういう理想と、こういう心構えに、いつも制約されていたのではないか」(『日本における外国文学』)

柳田泉先生は、ここに日本の近代を方向づけた何かがあると確信して、明治文化研究会の創設以来、翻訳文学の文献調査に力を尽くした。しかし、戦争で消失してしまった原資料の復元はできず、研究生活に終わりを告げられた。

私たちは近代における日本文学のありようを「翻訳文学」という断面で見直し検討するために、明治期翻訳文学の原資料を調査してきた。とりわけ、研究者の手に届かなくなった新聞・雑誌に掲載された明治期翻訳文学作品の調査に、すでに十年の歳月をかけてきた。幸いにして、その全体の見取り図がほぼできたので、今後さらに五年を費やして学界に提供していこうと考えた。

原資料に接して感じたことは、掲載誌紙には翻訳という項はなく、著作と同格に扱われており、かつその訳者の多くが作家であったことである。二葉亭四迷、尾崎紅葉、森鷗外、福地桜痴、内田魯庵、森田思軒、小栗風葉、小杉天外、若松賤子、島崎藤村、馬場孤蝶、国木田独歩、田山花袋、小山内薫、島村抱月、土岐哀果、長塚節、永井荷風、正宗白鳥と列挙すれば際限ないが、ほぼ明治の文学全集に収録される作家と対応していることが分かった。明治の文学者が西欧作家の創造世界に対し、みずから最初に立ち会えなかったことを嫉妬しつつ、みずからの文学創造の手掛かりを近代日本の国民として、自国語を用いて模索している姿がここにある。国民国家形成期という特殊な時代が要請する「国民文学」形成の強い欲望が、すぐれた文学者の精神のうちで熟成して、「誰も言ったことのない言葉」を日本語で語ろうとする「敬虔な羨望」ないしは「怒れる羨望」の発露を目の当たりに見る思いがする。明治期の翻訳は異国の言語の変換であると同時に、新しい物語を創造する中心舞台であった。そこには存在に至る自由の証人たらしめる文学営為があった。今日、私たちの存在が情報化社会の中で断片化され、作家の物語能力が腐食してしまった文学世界に向かって、明治期翻訳文学は「文学とは何か」を問いかける文学空間となっている。

《翻訳家編》全2巻

刊行開始(2003年7月完結)

2002年1月

翻訳といえば、常に原典との対比が問題とされ、正しい

翻訳とは何かと問われる。だが、文化の翻訳とは日本の近代化が西欧の社会をモデルとして移入してきた政治・法律等の例を参酌すれば明らかのように、大枠として近代社会の枠組を踏襲しつつも異なる制度を築き上げてきた。文化の翻訳とは受容する社会の歴史と制度とに大きく制約される。文学作品のみをその例外として語学的な穿鑿するのは、常識的に考えれば異常な事態と言わざるを得ない(翻訳と創作を差別化して評価を異にしたのは文学研究の制度化の投影であろう)。異文化の理解度とその結果としての差異を知るために、翻訳が語学的に正確かどうかを問うことは研究の出発点として当然検証されなければならない。ただ翻訳研究がそこで留まるのは「語学的」研究という前提の確認に過ぎない。翻訳文学研究は、異文化を受容する読者(訳者を含めての読者)がいかなる人間存在のあり方を創造し、人間と社会を形成していったかが主題とならなければならない。翻訳作品に即して述べれば、「翻訳」における文学の完成度の基準をどこに据えるかという問題意識につながるであろう。

ここに選んだ二十四名の作家、三遊亭円朝、福地桜痴、益田克徳、井上勤、坪内逍遙、森田思軒、黒岩涙香、森鷗外、二葉亭四迷、嵯峨の屋お室、原抱一庵、尾崎紅葉、小栗風葉、内田魯庵、馬場孤蝶、松居松葉、田山花袋、国木田独歩、上田敏、森皚峰、佐藤紅緑、草野柴二、押川春浪、小山内薫は、それぞれ異なる角度から近代日本の文化形成に積極的にかかわり、その中枢にいた文学者たちであった。彼らが時代に対処し選択を迫られたものが、日本人の生き方の基層となって今日の文化を形作ってきた。その近代像の正否を越えて、彼らの築いた精神の総体こそが私たちの内なる「近代」となっている。今日、翻訳研究が文化研究の名に値するのは、築かれた精神の総体を明らかにし、文化の足場を明らかにしていくことであろう。私たちはその研究の一助となるよう、できる限り明治期の翻訳文学の実相を総体的に調査して基盤整備としての資料集を編纂していく覚悟である。

西欧作家別《新聞雑誌編》を縦系とし
翻訳家ごとに巻別する《翻訳家編》を横系として
明治期翻訳文学の全体像を浮かび上がらせる。

編集方針

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》 全50巻・別巻2
明治翻訳文学全集《翻訳家編》 全20巻

●収録内容

- 1 《新聞雑誌編》全50巻の本巻は、明治期の新聞雑誌に掲載された翻訳作品を各作家別（62名の作家を収録）に集成、イギリス文学16巻、アメリカ文学6巻、フランス文学11巻、ドイツ文学2巻、ロシア文学10巻、北欧・南欧文学5巻とし、別巻として明治期翻訳文学総合年表、総索引・総目次の2巻を付す。
- 2 《翻訳家編》（続明治翻訳文学全集）全20巻は、明治期の新聞雑誌および単行の稀観書より24名の翻訳家別に翻訳作品を収録する。
- 3 《新聞雑誌編》《翻訳家編》には、収録作品に重複は一篇もない。
- 4 各巻頭口絵に、作品（装幀・口絵・挿絵・誌面等）・作者・翻訳家の写真・肖像等を配する。
- 5 作家・翻訳家ごとに「明治翻訳文学年表」（新聞・雑誌・単行本）を作成し該当巻末に収録する。
- 6 各巻に研究者による作家・作品論、目録・書誌、また翻訳文学との関わりについての論考を掲載する。
- 収録体裁
- 7 各巻の作品配列は、刊行形態を区別せず発表順を基本とし、発表年月は、雑誌・単行本の場合は年月、新聞は年月日を収録ページの欄外に「作品名・翻訳者名」と共に示した。
- 8 作品は原則として発表掲載のまま、該当のページを複製、ただし、新聞掲載作品については、ページの収まるように適宜編集した。

◆今後、これらを凌ぐ資料は望めない！

近代日本の翻訳を総覧する
原典資料&目録&事典

（刊行年順）

シエイクスピア翻訳文学書集成

全45巻・別巻2 川戸道昭・榎原貴教編（1989-2000） 本体40,000円

明治期刊行のシエイクスピア翻訳（翻案）作品の単行書を網羅。

明治のシエイクスピア《総集編》

全2巻 川戸道昭・榎原貴教編（2000） 本体36,000円

「シエイクスピア翻訳文学書集成の別巻。シエイクスピア受容の過程、諸相を精緻に考証。図版多数、書誌・目録・年表・索引。」

児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成
の125年翻訳目録

全8巻 川戸道昭・榎原貴教編（2005-06） 本体14,000円

作品がいかなるイメージと言葉で翻訳されてきたか、訳例と挿絵で具体的に示す画期的目録。

図説児童文学翻訳大事典

全4巻 児童文学翻訳大事典編集委員会編（2007） 本体120,000円

①日本の外国児童文学（全カラー400頁） ②③原作者と作品 ④翻訳児童文学研究（論文・年表・索引）

図説絵本・挿絵大事典

全3巻 川戸道昭・榎原貴教編（2008） 本体95,000円

絵本・挿絵・画家を日本の児童書400年（江戸期〜現代）の流れの中に初めて総合的に捉える画期的事典。カラー図版170余点、モノクロ図版400点、約1200人の画家列伝と作品掲載目録（類書で最多）。

図説翻訳文学総合事典

全5巻 翻訳文学総合事典刊行会（川戸道昭・榎原貴教）編（2009） 本体120,000円

図録、歴史、原作者と作品、シリーズ叢書・全集総覧、研究論文から翻訳文学の全貌を初めて明らかにした事典。

世界文学総合目録

全10巻・別巻1 川戸道昭・榎原貴教編（2010-12） 本体264,000円

10万点の外国文学翻訳作品（図書・新聞・雑誌）と原作にたどりつける、かつてない規模の目録。国別編成。別巻は作品名索引。

資料 近代日本語へ形成と翻訳

全18巻・別巻1 川戸道昭・榎原貴教編著（2014-16） 本体467,000円

「近代日本語は翻訳との遭遇によってその核心部分が形成されてきた。」近代日本語の〈成立〉とは、〈言文一致〉とな、なんだったのか？根本を問う画期的業績。原典復刻編集資料集。

・詳細内容案内進呈 ・在庫はお問合せください。

明治翻訳文学全集

編集 川戸道昭・中林良雄・榊原貴教*

26	デュマ父子集	11	27	ヴェルヌ集 I	12
25	ユゴー集 II	11	28	ヴェルヌ集 II	12
24	ユゴー集 I	11	29	ドーデ集	12
23	モリエール集	11	30	ゾラ集	12
22	アメリカ詩集	11	31	モーパッサン集 I	12
21	バーネット集	10	32	モーパッサン集 II	12
20	マーク・トウェイン集	10	33	フランス文学集	12
19	ポー集	10	34	ゲーテ／ハイネ集	13
18	ホーソン集	10	35	シラー集	13
17	アーヴィング集	10	36	プーシキン／レールモンツフ集	14
16	イギリス詩集 II	9	37	ゴーゴリ集	14
15	イギリス詩集 I	8	38	トルストイ集 I	14
14	リットン集	8	39	トルストイ集 II	14
13	十八世紀イギリス文学集	8	40	ツルゲーネフ集 I	14
12	キプリング集	8	41	ツルゲーネフ集 II	14
11	サツカレー／キャロル集	8	42	チエーホフ集 I	15
10	ワイルド集	8	43	チエーホフ集 II	15
9	コリンズ集	8	44	ゴッリキー集	15
8	ドイル集	8	45	ドストエフスキー集	15
7	ステイブンソン集	6	46	アンドセルセン集	15
6	デイケンズ集	6	47	イプセン集	16
5	スコット／ブロンテ集	6	48	ストリンドベリ集	16
4	シェイクスピア集 IV	6	49	メーテルリンク集	16
3	シェイクスピア集 III	6	50	イタリヤ文学集	16
2	シェイクスピア集 II	6	別巻 1	明治期翻訳文学総合年表	17
1	シェイクスピア集 I	6	別巻 2	総目次・総索引	17

《新聞雑誌編》

全 50 巻・別巻 2

《翻訳家編》

全 20 巻

1	三遊亭円朝集	18
2	福地桜痴・益田克徳集	18
3	井上勤集	18
4	坪内逍遙集	18
5	森田思軒集 I	18
6	森田思軒集 II	18
7	黒岩涙香集	18
8	森鷗外集 I	19
9	森鷗外集 II	19
10	二葉亭四迷集	19
11	原抱一庵集	20
12	尾崎紅葉・小栗風葉集	20
13	内田魯庵・嵯峨の屋お室集	20
14	馬場孤蝶集	20
15	松居松葉集	20
16	田山花袋・国木田独歩集	20
17	上田敏集	20
18	森嶋峰・佐藤紅緑集	21
19	草野柴二・押川春浪集	21
20	小山内薫集	21

原作者名索引

(両編に収録の原作者を
探せます。)

《刊行の記録》

*《新聞雑誌編》編集協力

《新聞雑誌編》

制作 ナタ出版センター
発行 大空社
1996-2001 刊

《翻訳家編》

発行 大空社
ナタ出版センター
2002-2003 刊

明治翻訳文学全集

《新聞雑誌編》

全50巻
別巻2

全収録作品目録

【国・地域別】

イギリス	1	16巻
アメリカ	17	22巻
フランス	23	33巻
ドイツ	34	35巻
ロシア	36	45巻
北欧・南欧	46	50巻

*各作家別に「明治翻訳文学年表」(単行本を含む)を収録。
*《論考》の[]は「明治翻訳文学と私」として連載されたもの。また、中林筆の論考は「西洋文学受容史のために」(1-19)の副題をもつ。
*本目録中の作品年代は年月(連載は初回の月のみ)を記載。

① シェイクスピア集Ⅰ

●明治初年代から10年代のシェイクスピアの翻訳は主として新聞の連載で発表された。
ハムレットの独白(ワググマン訳 ジャパン・パンチ 明7・1)

葉武列士(仮名垣魯文訳 平仮名絵入新聞 明8・9)
胸肉の奇訟(無署名 民間雑誌 明10・12)
新約繁昌記 劇場(曾総道人訳 驥尾団子明12・3)
(ロミオ)ト(ジュリエット)ノ話(無署名 喜楽の友 明12・4)
「ハムレット」中の一段(矢田部良吉訳 東洋芸雑誌 明15・3)

高僧ウルゼー(外山正一訳 郵便報知新聞 明15・3)
「ヘスリー第四世」中の一段(外山正一訳 郵便報知新聞 明15・4)

春宵夜話(ゼウイントルス テール)(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明16・3)
春宵夜話(アズ ユーライク イト)(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明16・4)

春宵夜話(ヴェエロナの二紳士)(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明16・5)
春宵夜話(ハムレット)(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明16・6)

欧州奇聞花月情話(菊亭香水訳 函右日報 明17・2)
花間の一夢(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明17・12)
落花の夕暮(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明18・4)

何桜彼桜銭世中(宇田川文海訳 大阪朝日新聞 明18・4)
旬国皇子 班烈多物語(坪内雄蔵訳 中央学術雑誌 明18・7)

栄枯の夢(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明18・7)
雨後の花(藤田茂吉訳 郵便報知新聞 明18・7)
人肉質入裁判(巖本善治訳 文学叢誌 明18・10)
《論考》シェイクスピア集 解説(川戸)ノシェイクスピアと明治の時代精神(川戸)ノ「夏葉のロシア語辞書(中村喜和)」

② シェイクスピア集Ⅱ

●明治20年代、シェイクスピア受容の底辺を広げていく。

葉武列士倭錦絵(仮名垣魯文訳 東京絵入新聞 明19・10)
理想佳人伝(無署名 女学雑誌 明20・1)
海外情譜(無署名 大阪日報・明20・7)
三人の姫(巖本善治訳 女学雑誌 明20・8)
転合笑話(無署名 土陽新聞 明20・8)
情天恨地 志しりい物語(架空道人訳 学芸の世界 明20・10)

妙縁奇遇 白金の指輪(菅城子訳 土陽新聞 明20・12)
豪華之夢(鯖江小漁訳 学芸の世界 明21・1)
正本はむれツと(山田美妙訳 以良都女 明21・5)
活人形(架空道人訳 日本大家論集 明22・4)
マクベス評注(坪内逍遙訳 早稲田文学 明24・10)

《論考》西洋文学受容の社会的背景(神原)ノ欧米文学の移入経路としての学校教育…英語読本に育まれた明治の文学精神(川戸)ノ「若き日の文学読書遍歴…翻訳文学を中心に(徳永守儀)」

③ シェイクスピア集Ⅲ

●明治25く32年、様々な可能性が試みられた。

魔王来(山田美妙訳 国民新聞 明24・10)
夏草(島崎藤村訳 女学雑誌 明25・7)
沙翁戯曲該撒一節(明石居士訳 女学雑誌 明27・7)
悲劇 魂迷月中刃(岩野泡鳴翻案 女学雑誌 明27・8)
応仁革命結城譚(竹柴賢二翻案 歌舞伎新報 明28・12)
デンマルクの皇子ハムレットの悲劇(坪内逍遙訳 早稲田文学 明29・3)
マクベス(坪内逍遙評訳 国学院雑誌 明30・6)

梅模様形見小袖(中村福助翻案 文芸倶楽部 明32・4)
オセロ(戸沢姑射訳 太陽 明32・8)
《論考》西洋人名移入考…シェイクスピアと明治の人名辞典(川戸)ノ「ハムレットと私(河竹登志夫)」

④ シェイクスピア集Ⅳ

●明治後期の翻訳を収録。

オセロ(江見水蔭翻案 文芸倶楽部 明36・2)
喜劇 花菖蒲(藤浪一如・小栗風葉訳 太陽 明36・5)
ハムレットの原説(巖谷小波訳 太陽 明36・11)
夏の夜の夢(小松月陵訳 白百合 明37・11)
ヴィナスとアドニス(皆川真折訳 帝国文学 明38・8)
ハムレット劇中の劇(戸沢姑射訳 明星 明38・9)
ロメオ、エンド、ジュリエット(戸沢姑射訳 白百合 明38・12)

月あかき宵 浅山たかし訳 文庫 明39・1)
ヴェニス商人(浅野馮虚訳 白百合 明39・2)
エニスの商人(坪内逍遙訳 早稲田文学 明39・7)
ハムレット(坪内逍遙訳 早稲田文学 明40・6)
真夏の夜の夢の間劇(浦瀬白雨訳 帝国文学 明43・10)
あらし序幕(坪内逍遙訳 早稲田文学 明45・2)

喜劇 陽気な女房(松居松葉訳 文芸倶楽部 明45・2)
《論考》シェイクスピア学の源流…近代日本演劇の原点(川戸)ノ「英語訳の「イデオロギー」(大澤吉博)ノ明治期翻訳文学紹介・研究文献(日本におけるシェイクスピア)」

⑤ スコット／ブロンテ集

●スコットは明治初期翻訳文学の花、20く30年代の動静を伝える。シャロット・ブロンテは「ジェーン・エア」を収録。付録として『日陰者』の「ジュディ」部分訳など、トーマス・ハーデーの5点を収録。

【スコット編】

ケネルオルス(訳者不記 女学雑誌 明21・2)
喇叭の声(石川残月庵訳 国民之友 明27・4)
スコット愛国の歌(池袋浅香訳 海国少年 明30・6)
臥豹武士(桜井鷗村訳 英文新誌 明36・10)
龕前の夢(大内白月訳 文庫 明37・8)

カトリック湖 松董訳 新声 明38・4)
馬上の勇士 野上白川訳 文芸界 明38・9)
【ブロンテ集】

理想佳人(水谷不倒訳 文芸倶楽部 明29・7)
【ハーデー編】
デュード・ラプスキューア(千葉掬香訳 翻訳時報 明33・11)
女詩人(鶴浜生訳 慶応義塾学報 明39・4)
テス(高瀬青袍訳 帝国文学 明39・11)

未亡人(佐藤迷羊訳 新思潮 明41・3)
兄弟の苦しみ(佐藤清訳 新人 明44・4)
《論考》トマス・スカーライルと明治の文芸思潮…『英雄崇拜論』の受容を中心に(川戸)ノ「明治前半期の翻訳小説について…リットン、スコット、ディズレーリの小説を中心に(鏡味國彦)」

⑥ デイケンズ集

●幻の雑誌といわれた「有無雑誌」をつきとめ「船遊」を収録。

船遊(磯野徳三郎訳 有無雑誌 明19・5)
影法師(饗庭簗村訳 読売新聞 明21・9)
伊太利の囚人(森田思軒訳 国民之友 明22・5)
黒頭巾(内田魯庵訳 国民之友 明24・9)
デッケンズが其児に与ふるの書(無名氏訳 女学雑誌 明25・4)

雛嫁(若松賤子訳 国民之友 明25・8)
船遊山(芳文訳 城南評論 明26・1)
小児星を夢む(志川生訳 家庭雑誌 明27・11)
内と外(徳田秋声訳 少年文集 明29・3)
牢罫り(森田思軒訳 家庭雑誌 明29・8)
醉魔(内田魯庵訳 太陽 明29・10)

童児の星の夢(国木田独步訳 家庭雑誌 明30・10)
盲妹(山田枯柳訳 裏錦 明30・11)
逝きにしネル(前田梅城訳 新声 明38・7)
従兄弟(大谷穂石訳 明星 明38・9)
海の嵐(吉江孤雁訳 新古文林 明38・11)
小桜新八(堀枯川訳 都新聞 明44・1)

《論考》デイケンズの翻訳と翻訳者のこと(中林良雄)ノ「明治期翻訳文学と私(松村昌家)」

⑦ ステイヴンソン集

●翻訳は代表作『宝島』の翻訳から始まる(宮井抄訳。漱石『彼岸過迄』は「新アラビヤ夜話」にヒントを得て創作された)。

新作たから島(宮井安吉訳 文芸倶楽部 明28・1)
その夜の宿(大井蒼梧訳 明星 明38・11)
ステイヴンソンの小船旅行(戸川秋梧訳 明星 明41・1)

椿事(西村渚山訳 開拓者 明41・5)
平原と星(藤田麒一訳注 英語の日本 明41・10)
雨ノ海岸(小林愛雄訳 帝国文学 明42・8)
一夜の宿(鬼嶋熊之助訳 中外英字新聞 明42・9)
いたづら(木村久一訳 新人 明42・11)
独木舟紀行(無署名 中外英字新聞 明43・9)
子供の歌園(赤星生訳 新女界 明44・12)
《論考》「現代作家」としてのステイヴンソンの受容(川戸)ノ「野上弥生子と「世界名作大観」(田村道美)」

Extract from the new Japanese Drama
Hamuretsu san, "Danumarku no Kame," proving
the plagiarisms of English literature of the 16th
Century



Arimas, arimasen, are wa nan deska : —
Moshi motto daijobu atama naka, itai arimas
Nawa mono to ha ichiban warui takusan ichiban;
Aruu ude torimas muko mendo koto umi,
Soshite, bottery itashimas o shimai? Shindarji, neru
Mada; - sorekara, neru de hanashi mo yoroshi
Kokoro itai to issen mainichi bonkoty
Ushi ototsan arimas. sore wa dekimashita mono
Takusan skimashita, Shindarji; — neru; —
Neru! okata nise haikin; sayo achira skoshi
serampan;
Kara ano shindarji no neru, nani nise haikin
dekimas
Kono nangei shindarji mono piggy shimashita,
Skoshi mata sinjo :

Vos valete, et plaudite
Anata sayonara, soshite te ponpon.

8 ドイル集

●日本の探偵小説にドイルの及ぼした影響は大きい。シャーロック・ホームズものを中心に俯瞰。乞食道楽(無署名 日本人 明27・1) 不思議の探偵(奇怪の鴨の胃/帝王秘密の写真/禿頭俱樂部)(水田南陽訳 中央新聞 明32・7) 倫敦通信 新陰陽博士(原抱一庵訳 文芸倶楽部 明33・9) 花嫁のゆくへ(上村左川訳 女学世界 明34・6) 再婚(上村左川訳 太陽 明34・11) 偽紳士(小羊生訳 慶応義塾学報 明36・10) 軍事小説 大佐の罪(高須梅溪訳 太陽 明37・7) 帝国の記念(衛藤東田訳 文庫明38・5) 奇談 外交文書の紛失(千葉紫草訳 日露戦争写真真報 明38・11) 宝玉の行方(某文学士訳 太陽 明40・3) 探偵小説 鼻眼鏡(勝間舟人訳 文芸倶楽部 明41・2) 《論考》明治時代のシャーロック・ホームズ・ドイルの紹介と初期の探偵小説(川戸)／「ホームズ物語の種本(伊藤秀雄)」

9 コリンズ集

●「近代イギリス探偵小説の中で最初で、最長編で、最高作」とエリオットが絶賛した『月長石』。思軒により前半が翻訳される。月珠(森田思軒訳 郵便報知新聞 明22・6) 月珠(原抱一庵訳 報知叢話 明24・4) 白衣婦人(原抱一庵訳 都の花 明24・4) 《論考》センセイション・ノヴェルの流行…ウィルキー・コリンズと明治二十年代の翻訳小説(川戸)／「探偵小説の移入(中島河太郎)」

10 ワイルド集

●唯美主義を提唱し、世紀末文学の旗手として活躍したワイルドの翻訳は明治40年代から行われ、日本文学に独特の影響を与えた。谷崎潤一郎、佐藤春夫、日夏耿之助らはここから多くのものを汲み取り作家活動の中で開花させていった。オスカ・ワイルド詞華(小林愛雄訳 帝国文学 明41・8) キンダーミーマ夫人の扇(岩野泡鳴訳 早稲田文学 明42・1) 熱心の大切な事(岩野泡鳴訳 早稲田文学 明42・2) 悲劇サロメ(小林愛雄訳 新小説 明42・3) (参考) 丸善 無窮庵作(帝国文学 明42・5) オスカ・ワイルドの警句(厨川白村訳 帝国文学 明42・5)

戯曲 サロメ(森鷗外訳 歌舞伎 明42・9) セバステイアン・メルモス(川島風骨訳 趣味 明42・12)

鶯と薔薇(M・K生訳 太陽 明43・2) フロレンスの悲劇(金子健二訳 心の花 明43・4) 我儉な巨人(田波御白訳 帝国文学 明43・7) 親友(田波御白訳 東亜の光 明43・10) 恋の創傷(天沼袍村訳 心の花 明44・8) 悲劇 革命婦人(内田魯庵訳 朝日新聞 明44・11) 喜劇 手提靴(森嶋峰訳 時事新報 明45・2) 《論考》訳詩家小林愛雄のこと(中林良雄)／「ワイルドと大日本帝国(堀江珠喜)」

11 サツカレー／キャロル集

●2作家とも新資料、新たな研究を俟つ巻。《サツカレー編》 青幽霊(圭園子訳 なにはがた 明24・6) 白梅嬢(蠡湖漁史訳 少年文庫 明26・8) ヴァニチー・フェア(磯辺弥一郎訳 英文学講義録第6巻 明27・10) 小説一寸法師(太田玉若訳 少年文集 明31・4) 還俗僧(せうげつ訳 慶応義塾学報 明34・3) 虚栄の巷(薄田斬雲訳 新小説 明39・5) ヴァニチー・フェアの一節(山崎貞訳注 英語の日本 明43・10) 《キャロル編》 鏡世界(長谷川天溪訳 少年世界 明32・4) トランブ国の女王(永代須磨子訳 少女の友 明41・3) 海の学校(永代須磨子訳 少女の友 明41・4) 森の魔(永代須磨子著 少女の友 明41・5) 底無沼(永代須磨子著 少女の友 明41・6) 幸福の杖(永代須磨子著 少女の友 明41・7) アリス物語 嫉妬の神(永代須磨子著 少女の友 明41・8) アリス物語 真珠の宮殿(永代須磨子著 少女の友 明41・9) アリス物語 大悪龍王(永代須磨子著 少女の友 明41・10) アリス物語 貞操の宝(永代須磨子著 少女の友 明41・11) アリス物語 宝の島のお正月(永代須磨子著 少女の友 明42・1) アリス物語 海の遊び(永代須磨子著 少女の友 明42・2) アリス物語 最後の勝利(永代須磨子著 少女の友 明42・3) 不可思議国探検記(長谷川康訳注 英語之友 明42・10) 《論考》キャロル・イン・ザ・メイジ・イアラ…アリスに関する文献数種(川戸)／「奇想の詩人、ルイス・キャロル(谷口靖彦)」

12 キプリング集

●大英帝国の愛国詩人として絶大な人気を博したキプリング。春曙・湖山共訳の『ジャングル・ブック』すべてを収める。狼少年(土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界 明32・7) 虎退治(土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界 明33・1) 庭園の大戦争(土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界 明33・6) 軍用の獣類(土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界 明33・9) リスベス(島村抱月訳 翻訳時報 明33・10) 象の舞踏会(土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界 明34・2) 印度の片影(中島孤島訳 小天地 明35・8) 海底電線(詩)(金子南冥訳 心の花 明37・4) 小説 高原の娘(無名氏訳 慶応義塾学報 明37・5) 熊の休戦(詩)(無署名 英文新誌 明38・9) かくし妻(片上天弦訳 早稲田文学 明40・1) 海底電線(詩)(小林愛雄訳 文庫 明41・4) 狸々物語(厨川白村訳 明星 明41・4) 狸々(上野露村訳 文芸倶楽部 明42・4) 懐中時計(J・I生訳 慶応義塾学報 明44・1) 思ひ違ひ(鶴洲生訳 慶応義塾学報 明45・2) 《論考》『ジャングル・ブック』の紹介と初期の児童文学(川戸)／「三遊亭円朝とモーパーッサン(秋山勇造)」

●デフォー、リチャードソン、ジョンソン、ゴルドスミスを収録。これらの作家は、明治期においてシェイクスピアと並び、日本人に愛読された。デフォー『ロビンソン・クルーソー』は今日なお多くの読者を持つが、ジョンソン、ゴルドスミスが明治期になぜ愛読されたかを、百枚を超える解説で詳説。

【デフォー集】 九死一生 魯敏孫物語(横須賀橋園訳 驥尾団子 明12・4) ロビンソン、クルーソー(訳者不記 小国民 明25・9) ロビンソン、クルーソーの冒険(好遊生訳 日本之少年 明27・3) 亜歴セルカーク(森田思軒訳 太陽 明28・5) 少年魯敏遜(石井研堂訳 少年世界 明33・8) 倫敦疫癘記(大谷正信訳 英語の日本 明41・11) ロビンソン、クルーソー漂流記(佐川春水訳 英語の友 明42・3) 【リチャードソン集】 クラリッサ(中島孤島訳 太陽 明38・5)

【ジョンソン集】 ラセラスの伝(訳者不記 西洋学芸雑誌 明20・3) 勇士の夢(中村可雄訳 郁友会雑誌 明31・3) 【ゴルドスミス集】 隠者(荻村段山訳 日本人 明22・11) 母の愛(松尾連訳 幼年雑誌 明24・6) 両秀才(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・4) 詩伯ゴルドスミッス(戸川残花著 三頼 明26・4) 隠者(胡沙生訳 新文芸 明34・5) 村の牧師(佐々木雪子訳 婦人界 明36・6) 喜劇 かんがひ(水上夕波訳 心の花 明40・10) 珍客(村祐治訳 英語の日本 明41・11) 支那と欧州(KO訳 英語の日本 明42・12)

14 リットン集

●織田純一郎、井上勤、坪内逍遙、益田克徳らが競って翻訳した明治期に人気のあった作家だが、今日その名を知る人は少ない。この評価の落差の激しさこそ、異文化研究の宝庫。人間万事金世中(河竹黙阿弥訳 歌舞伎新報 明12・2) 父子奇遇 白浪艶話(小川漁史訳 驥尾団子 明12・7) 善悪の岐(中嶋粧園訳 女学雑誌 明20・7) 奔彪栄華の夢(青笠小史訳 女学雑誌 明21・1) 栄枯譚(韋庵居士訳 朝野新聞 明21・2) ぼんべい栄華の夢(益田克徳訳 東京新聞 明23・9) 人間万事金世中(河竹黙阿弥訳 歌舞伎新報 明23・11) 花売り(戸川残花訳 三頼 明26・3) 野薔薇(竹雨生訳 婦人新報 明28・4) ユージン、阿羅(原抱一庵訳 明星 明35・6) ポンペイの末日(桜井鴎村訳 英文新誌 明38・3) 花束(萍雨訳 文庫 明38・4) 盲少婦の最期(桜井鴎村訳 英文新誌 明38・5) 羅馬最後の保民官リエンジ(桜井鴎村訳 英文新誌 明39・11) 《論考》リットンの小説と初期の翻訳文体…言文一致体との関係を中心に(川戸)／「ブルワーリットンだったのか? (松村昌家)」

●ワーズワス、コールリッジ、バイロン、キーツ、シェリーの明治20年代にかけて発表された約80編を収録。ワーズワス、バイロンは、透谷ら「文学界」同人の浪漫主義に大きな影響を与えた。

15 イギリス詩集 I

●ワーズワス、コールリッジ、バイロン、キーツ、シェリーの明治20年代にかけて発表された約80編を収録。ワーズワス、バイロンは、透谷ら「文学界」同人の浪漫主義に大きな影響を与えた。

黒猫

今、筆を執らうとしてゐるのは最も荒唐不稽な物語であつて人から信じられやうと思つて居なければ、また信じられると思つてゐない。自分自身さへ信用の出来ないものを人に求めるのは狂気の沙汰であらう。もとより自分は癡狂してゐるのでもなければ、夢を見てゐるのでもない。たゞ私は明日死ねばのぞんで、今日この精神上の重荷をあらしめたいと思ふところから、事の成行を簡單、明瞭に修飾なく、單に家庭内の出来事として世間に發表しやうとするのである。この出来事は自分に非常な恐怖や苦痛を與へ、自分といふものは全々破壊された。しかも猶自分はこの事件の解決を試みやうとはしない。これは自分にとつては崩壊ひする程のことであつたが、大方の人々には「不思議」よりか怖くない位なものであらう。恐らく今後見出される智力に依りて、この幻想と尋常茶飯事に引下げられるのであらう——もつと冷靜な、もつと論理的な智力に依つて、今自分が非常な恐怖の

黒猫 平塚らいてう訳

青鞥 明治44年12月 288

アーヴィング集

●明治21年の春陽学人訳「新郎の幽霊」が最初の訳といわれるが、精力的に紹介したのは、宮崎湖処子であつた。アーヴィングの影響は鵠外ら訳の「リップ・ヴァン・ウィンクル」を通して、アメリカ的男性像を学習してきた点にも見られる。

幽霊舞(山縣五十雄訳 文園 明22・1)
旅館の夕(森田思軒訳 郵便報知新聞 明22・4)
幽霊新郎(森田思軒訳 郵便報知新聞 明22・4)
新世界の浦島(森鷗外訳 少年園 明22・5)
母ひとり子ひとり(秋花女史筆記 以良都女 明22・5)
宇イストミンスタール寺(川島小訳 日本之少年 明23・5)

寡婦及び其子(宮崎湖処子訳 少年園 明24・6)
幽霊新郎(宮崎湖処子訳 少年園 明24・8)
華盛頓の臨終(山縣三郎訳 少年園 明24・12)
窮乏操觚者(内田魯庵訳 国民之友 明24・12)
断腸(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・1)
細君(篇舟子訳 扶桑の花 明25・1)
ワフルファート・ウェバー(三谷まさ訳 青年文学 明25・1)

田家之花(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・1)
日曜日の倫敦(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・4)

ホーソン集

●明治22年の「夢ならぬ夢」が初めての訳。訳者・大島正健は、森田思軒、原抱一庵の交友の広がりのおかげで次々と翻訳を発表。

夢ならぬ夢(大島正健訳 女学雑誌 明22・1)
心の浮画(大島正健訳 女学雑誌 明22・1)
結婚場裡之死鐘(かなめ生訳 同志社文学会雑誌 明22・10)

ポー集

●明治20年に篁村が「黒猫」「ルーモルグの人殺し」を発表したのがエドガー・アラン・ポーの翻訳の始まりといわれる。雷鳥は明治末から、ポーの作品を精力的に翻訳している。

西洋怪談 黒猫(饗庭篁村訳 読売新聞 明20・11)
目鏡(饗庭篁村訳 読売新聞 明21・1)
秘密書類(森田思軒訳 名家談叢 明29・1)
間一髪(森田思軒訳 太陽 明29・2)
狸々怪(長田秋涛訳 文芸倶楽部 明32・10)
心の音(小日向是因訳 帝国文学 明33・5)
壇中の遺書(上村左川訳 太陽 明35・11)
寂滅(厨川白村訳 帝国文学 明36・2)

詩人ポーとその名歌(厨川白村訳 明星 明37・1)
あなべる・りい(くれないな訳 明星 明37・9)
ゆうらりい(くれないな訳 明星 明37・10)
ポーの詩論(相馬御風訳 白百合 明38・2)
小説 大海原(石川不美比古訳 日露戦争写真画報 明38・12)

影(片上天弦訳 早稲田文学 明39・2)
沈黙(松本信夫訳 心の花 明39・11)
黒猫物語(煙荷香訳 新古文林 明40・1)

マーク・トウェイン集

●トウェインの移入は、児童文学と英語研究の中で始まる。明治期児童文学研究に欠かせない一巻。

生死如何(山縣五十雄訳 少年文庫 明26・11)
乞食王子(河山人訳 湖山人編、漣山人補綴 少年世界 明31・1)
骸骨物語(小栗風葉翻案 太陽 明35・11)
山家の恋(原抱一庵訳 太陽 明36・1)
奇夢(佐藤紅緑訳 文芸界 明36・11)
喜劇 恋と欲(斎藤紫軒訳 文園 明37・3)
落機山下の一怪譚(原抱一庵訳 文芸界 明37・12)
牧師ピーチャー君の農園(森ひぐらし訳 文庫 明39・4)

運(佐々木邦訳 スバル 明42・7)
千円(佐々木邦訳 文庫 明42・9)
いつはり(小沢愛閑訳 雄弁 明43・4)
賭け蛙(佐々木邦訳 文芸倶楽部 明45・6)
《論考》晩年の原抱一庵…誤訳論争のあとさき(川戸)／「明治期マーク・トウェイン」…文学の翻訳について(勝浦吉雄)「

バーネット集

●バーネットといえはまず若松賤子訳「小公子」が浮かぶくらい有名なが、本書では容易に見ることのできない最初の訳「花蝶物語」はじめ、「小公女」の二つの興味ある翻訳を収録。

欧州情話 花蝶物語(駝撫柳仙史訳 大和錦 明21・12)
セイラ、クルーの話(若松賤子訳 少年園 明26・9)
「小公子」註釈(中澤臨川註釈 婦人界 明37・1)

27 ヴェルヌ集 I

●ヴェルヌの翻訳は明治期日本人の科学的関心を喚起していった。最初の翻訳は川島忠之助だが、その後は、おおむね井上勤と森田思軒の独壇場といった感がある。

仏、曼二学士の譚（森田思軒訳 郵便報知新聞 明治20・3）

天外異譚（森田思軒訳 郵便報知新聞 明治20・5）
煙波の裏（森田思軒訳 郵便報知新聞 明治20・8）
盲目使者（森田思軒訳 郵便報知新聞 明治20・9）
大東号航海日記（森田思軒訳 国民之友 明治21・1）
《論考》原書から見た明治の翻訳文学・ジュール・ヴェルヌの英訳本を中心に（川戸／『ヴィクトル・ユゴー 移入前史（倉智恒夫）』

28 ヴェルヌ集 II

●明治20年代のヴェルヌ翻訳は森田思軒の独壇場といえる。

炭坑秘事（森田思軒訳 郵便報知新聞 明治21・9）
余が少時（森田思軒・山縣五十雄訳 少年園 明治24・9）
入雲異譚（森田思軒訳 日本之少年 明治26・7）
冒険奇談 十五少年（森田思軒訳 少年世界 明治29・3）
絶島秘事（古茅庵流水訳 世界之日本 明治31・3）
《論考》西欧文学との出会い「ジェイムズ・サマーズと東京開成学校の英文学講義（川戸）／『ヴェルヌの軌跡（私市保彦）』いま、調べておなくては……（横田順彌）」

29 ドーデ集

●明治期のドーデの翻訳は80点を超えるが、本集では22年から38年に発表された30点を収録、今日まで読み継がれているドーデと日本の静かな深いつながりを探る。

緑葉の歎（森鷗外・三木竹二訳 読売新聞 明治22・2）
星（小金井喜美子訳 日本之女学 明治22・2）
戦僧（森鷗外訳 少年園 明治22・3）
みくづ（森鷗外訳 国光 明治23・3）
政治を憎む文（森鷗外訳 国民之友 明治24・3）
あだ波（馬場孤蝶訳 世界之日本 明治29・11）
ツルゲーネフ（無署名 国民之友 明治30・3）
おとしひ（馬場孤蝶訳 文芸倶楽部 明治30・3）
たまくら（平田禿木訳 文学界 明治30・6）
誤解（徳富蘆花訳 家庭雑誌 明治31・1）
擬ひ真珠（上村左川訳 文芸倶楽部 明治35・5）
「擬ひ真珠」の後に題す（田山花袋訳 文芸倶楽部 明治35・5）
夏の夜（馬場孤蝶訳 明星 明治35・6）

隠家日記（馬場孤蝶訳 明星 明治35・7）

球突（戸川秋骨訳 帝国文学 明治36・1）

怠惰屋の弟子入り（国木田独歩訳 東洋画報 明治36・3）

売家（田山花袋訳 文芸倶楽部 明治36・12）

サホー（渡辺霞亭補訳 文芸界 明治37・3）

間諜少年（田中嘯月訳 慶応義塾学報 明治37・10）

怖い先生（鶴浜生訳 慶応義塾学報 明治37・11）

あだなみ（生田星郊訳 明星 明治38・1）

軍司令部（皚峰訳 慶応義塾学報 明治38・1）

ゴム靴（徳田秋声訳 新声 明治38・3）

戦争の跡（生田葵山訳 女学世界 明治38・4）

余の知れるツルゲーネフ（荒木嘯羽訳 太陽 明治38・5）

出京と初作（荒木嘯羽訳 帝国文学 明治38・5）

二軒茶屋（小山内薫訳 戦時画報 明治38・8）

鼓手（荒木嘯羽訳 日露戦争写真画報 明治38・10）

《論考》翻訳家としての馬場孤蝶（中林良雄）／『アルフォンス・ドーデと私…兄弟愛が織りなす『ル・プティ・ショーズ』（富田仁）』

30 ゾラ集

●明治24・25年、逍遙と鷗外の間で没理想論争が起こり、ゾラの科学的客観主義について論争が行われた。ゾラはこの前後から毎年一、二点が翻訳され始め30年代には埤枯川の紹介を通じて日本社会主義運動にも影響を与えていく。

《論考》西欧文学との出会い「ジェイムズ・サマーズと東京開成学校の英文学講義（川戸）／『ヴェルヌの軌跡（私市保彦）』いま、調べておなくては……（横田順彌）」

酒鬼（内田魯庵訳 女学雑誌 明治22・5）

《俄限定者》を読みみて（菊痴居士訳 日本之文華 明治23・1）

大洪水（松居松葉訳 国民新聞 明治25・8）

春花秋月（松居松葉訳 都の花 明治25・11）

牧園（宮崎湖処子訳 国民新聞 明治26・2）

わが死（木内愛溪生訳 この花草紙 明治26・5）

大洪水（松居松葉訳 文芸倶楽部 明治29・8）

近世の嫁入り（蝴蝶散士訳 大日本 明治29・10）

戦塵（内田魯庵訳 文芸倶楽部 明治30・2）

女ざらひ（松居松葉訳 文芸倶楽部 明治31・5）

31 モーパッサン集 I

●明治期にモーパッサンがなぜかくも翻訳されたか。明治30年以來、優に二百点を越す翻訳が新聞雑誌に発表された。

首輪（築地庵主人訳 家庭雑誌 明治30・2）
青春夢（岸上質軒訳 文芸倶楽部 明治30・6）
糸くづ（国木田独歩訳 国民之友 明治31・3）
小説一兵卒（田山花袋訳 少年文集 明治31・4）

従卒（戸川秋骨訳 読売新聞 明治31・6）

コルシカ島（田山花袋訳 読売新聞 明治31・8）

野辺おくり（金子笹下庵訳 早稲田文学 明治31・10）

文反古（上田敏訳 帝国文学 明治32・5）

ゐろり火（上田敏訳 帝国文学 明治33・12）

ふせやの雨（小日向是因訳 帝国文学 明治34・3）

有髪尼（長田秋濤訳 文芸倶楽部 明治34・4）

頸環（小日向是因訳 帝国文学 明治34・7）

老農（田山花袋翻案 小天地 明治34・10）

小兵士（小日向是因訳 帝国文学 明治34・11）

村長（田山花袋翻案 文芸倶楽部 明治34・12）

散歩（田山花袋訳 明星 明治35・1）

死人の秘密（上村左川訳 女学世界 明治35・3）

盲人（森しづか訳 小天地 明治35・4）

懺悔（吉田荻洲訳 明星 明治35・4）

五里霧中（上村左川訳 太陽 明治35・4）

冬籠（桐生悠々訳 文芸界 明治35・6）

老馬（吉田荻洲訳 明星 明治35・7）

常久のうらみ（馬場孤蝶訳 新声 明治35・9）

老子爵（田山花袋訳 文芸界 明治35・9）

ふながり（馬場孤蝶訳 明星 明治35・10）

《論考》「大陸文学」流行の位相（中林良雄）／モーパッサンにおける近代とその受容（榊原）／「自然主義と食後叢書（秋山勇造）」

32 モーパッサン集 II

●明治期モーパッサンの受容の相は、漱石の批評と荷風の熱狂との間にある。明治36・37年の2年間に訳された28編を収録。

ゆふ闇（馬場孤蝶訳 小天地 明治36・1）

遺書（川上桜翠訳 明星 明治36・1）

鐘の音（馬場孤蝶訳 新声 明治36・1）

古手紙（大谷繞石訳 明星 明治36・3）

浮浪者（太田玉茗訳 太陽 明治36・3）

青春夢（中野紫紅訳 新声 明治36・4）

月かけ（馬場孤蝶訳 婦人界 明治36・5）

月の夜（馬場孤蝶訳 明星 明治36・6）

大旦那若旦那（田山花袋訳 太平洋 明治36・7）

水辺の森（上村左川訳 文芸倶楽部 明治36・7）

兄弟（上村左川訳 文芸倶楽部 明治36・9）

夢なししか（厨川白村訳 帝国文学 明治36・9）

コルシカの賊（柴田流星訳 新声 明治36・10）

白狼（栗原古城訳 明星 明治36・11）

鷺鳥（木兄子訳 明星 明治36・12）

月光（川上桜翠訳 明星 明治37・1）

俘（むさし訳 新声 明治37・1）

生弁天（長田秋濤訳 文芸倶楽部 明治37・2）

砂漠の恋（太田玉茗訳 文芸倶楽部 明治37・4）

一家族（なでしこ訳 帝国文学 明治37・5）

大佐の意見（上村左川訳 太陽 明治37・8）

懺悔（松井天南訳 太陽 明治37・8）

まやかし物（香堂訳 慶応義塾学報 明治37・9）

義勇軍（橋本青雨訳 太陽 明治37・11）

豚林（長田秋濤訳 文芸倶楽部 明治37・11）

夢かあらぬか（山田枯柳訳 裏錦 明治37・11）

決闘（田中嘯月訳 慶応義塾学報 明治37・12）

頭飾（前田古水訳 婦人界 明治37・12）

《論考》「ローデンバックと上田敏（村松定史）」

33 フランス文学集

●バルザック（10点）、フロベール（6点）、ナトール・フランス（9点）の3人を収める。フロベールの日本初訳は、近代小説の記念碑的作品といわれる『ボヴァリー夫人』であった。

『バルザック編』

心の限（馬場孤蝶訳 文芸倶楽部 明治32・9）
あき屋敷（上村左川訳 文芸倶楽部 明治34・4）
仏国革命余譚 雪の一夜（鶴浜生訳 慶応義塾学報 明治35・11）

苦悶録（馬場孤蝶訳 明星 明治36・1）

田鶴子（吉田荻洲訳 明星 明治36・3）

フランドルに於ける基督（訳者不記 福音新報 明治36・6）

むごい助命（正宗白鳥訳 文芸倶楽部 明治36・8）

野獣の愛情（小川煙村訳 太陽 明治36・9）

狂画聖（内田魯庵訳 太陽 明治36・10）

荒磯（小羊生訳 慶応義塾学報 明治37・1）

『フロベール編』

新婚後（広瀬青波訳 アカネ 明治41・5）

舞踏会（広瀬青波訳 アカネ 明治41・6）

妻（広瀬青波訳 アカネ 明治41・7）

単純（生田長江訳 新小説 明治43・2）

聖ジュリアン（森鷗外訳 太陽 明治43・5）

十一月のII（長沼重隆訳 スバル 明治44・12）

『フランス編』

手品使ひ（訳者不記 文章世界 明治42・2）

無題十七章（生田長江訳 帝国文学 明治42・4）

舞姫タイス（水上夕波訳 心の花 明治42・5）

抵抗（若月紫蘭訳 帝国文学 明治43・3）

ユダヤの女（別所梅之助訳 新女界 明治43・6）

上臈（馬場孤蝶訳 学生文芸 明治43・11）

零碎録（みどり訳 雄弁 明治44・10）

影の法会（山本禿坪訳 スバル 明治44・10）

グスタス（山本禿坪訳 スバル 明治44・12）

《論考》「あとかき」風に（中林良雄）／「日本の明治時代と十九世紀フランス文学（渡辺響子）」

34 ゲーテ／ハイネ集

●ゲーテ「若きヴェルテルの悩み」は、明治22

年の錦城記「旧小説」から始まる。その他断片的ながら多くの翻訳が発表された(詩も多い)。ハインは詩作品ゆえ、あまり目立たぬが30編以上の翻訳がある。この2作家の作品が、日本のロマン主義の一つの源流となっていたことは間違いない。

【ゲーテ編】

ミニョンの歌(SSS訳 国民之友 明22・8)
旧小説(中井錦城訳 新小説 明22・8)
「ヘルマン・ウント・ドロテア」の梗概(山東生訳 しがらみ草紙 明22・10)
伊太利の佳人(愛軒居士訳 女学雑誌 明22・11)
愛国余譚(鈍適風流士訳 文明の母 明23・4)
のばら(鍾礼舎訳 国民之友 明23・11)
妖魔王(大竹みどり訳 少年園 明24・2)
わかきエルテルがわづらひ(緑堂野史訳 しがらみ草紙 明26・9)
悲劇「ファウスト」(大野酒竹訳 国民之友 明30・6)
花がたみ(忘我訳 帝国文学 明31・6)
ヘルマン、ウント、ドロテアの梗概(船尾栄太郎訳 慶応義塾学報 明32・1)
独詩評釈 涙中の楽(内海月杖訳 明星 明33・10)
フワウスト(山田枯柳訳 裏錦 明33・12)
ゲーテがスタイン夫人に送れる文の中より(大塚楠緒子訳 心の花 明34・2)

独詩評釈 涙の慰藉(かげろふ訳 心の花 明34・8)
西の歌屑(旅人がうたへる夜の歌/おなじく)(かげろふ訳 心の花 明35・1)
健気なる少女(柴田守中訳 明星 明35・8)
文のゆきかひ(ゲーテとカールと)(野田まづみ訳 芸界 明35・9)
悲曲 怨の刃(福智山人・紫雲村舎主人訳 新小説 明36・2)
准亭郎の悲哀(高山樗牛訳 帝国文学 明36・4)
春の歌(無題)(疑独庵訳 政教時報 明36・5)
旅人の夜歌/幸福なる航海/希望/魔王(疑独庵訳 政教時報 明36・6)
涙の慰藉/海浜の秋夜/飢餓/政教時報 明36・12)
おも影(若きエルテルの煩悶の一節)(まこと訳 心の花 明37・4)
哀詩(澤雨訳 文庫 明37・5)
羅馬悲歌集の中より(天壇訳 白百合 明37・11)
水の霊(金子南冥訳 心の花 明37・11)
かへり花(慰藉の涙)(秋元蘆風訳 文庫 明37・11)
はながつみ(流れに/旅人の夜のうた)(おぼろづきよ訳 明星 明37・12)
小詩二曲(無題)(おぼろづきよ訳 明星 明38・1)
楽師(山岸求園訳 白百合 明38・1)
哀歌(田中紫江訳 文庫 明38・2)
最新の手紙(英男訳 文庫 明38・3)

は、彼がわづらひを見て慰めよ。汝は不幸にて、又は
その地の過にて、親しき友なきときはこの小冊子を汝
の友とも見よ。

上の巻

その地を去りしわが籍しきは、いかばかりなる。君、人
の心とはそいかなる物ぞ、かた時も離れがたうと思
ひし君の許を去りて、今かくばかり籍しそれもふとは。
何事もゆるし玉はるべし。そのほかの交も誠になが
き小心を驚かしむる、不運の事のみふひき。氣の
違はるはレオノオレ様にて候。されどもそはわが罪に
はあらず。かの妹子のたもしるき氣をめで、いつ
も親しき物語をしを、かたのはかなき心にて、
さやかく思ひ煩ひたまひしなれば、何とも致しかた
く候。さはいふもの、わががたにも少しの罪なきに
はあらざるべし。かたの感情を養ひたてしは、我に
はあらざりしか。實は少しも笑ふべきことならぬを、

わかきエルテルがわづらひ 緑堂野史訳 しがらみ草紙 明治26年9月 54

新妻の夜(天壇訳 白百合 明38・4)
「あふさくるさ」(山岸求園訳 白百合 明38・4)
水(落合東郭漢訳 心の花 明38・4)
雲の歌(天壇訳 白百合 明38・8)
ミニョンの歌(山岸求園訳 白百合 明38・9)
最後の書簡(田中紫江訳 新声 明38・9)
訳詩二章(海の静寂)(氏家摩琴訳 心の花 明38・10)
抄訳二篇(不死不滅/貞操)(原青草訳 明星 明40・8)
歓迎哀別(三井甲之訳 アカネ 明41・2)
やすみ無き恋/旅人の夜の歌/見出しぬ(塩山訳 アカネ 明41・3)
新しき恋、新しき生活(塩山訳 アカネ 明41・4)
羅馬の謝肉祭(山本迷羊訳 新小説 明41・4)
五月の歌/野薔薇(塩山訳 アカネ 明41・5)
ゼーゼンハイムへ/夏の夜(塩山訳 アカネ 明41・8)
初夏の秋の夜(塩山訳 アカネ 明41・9)
初恋(塩山訳 アカネ 明42・1)
夕暮と雨との詩(美し夜)(青山郊汀訳 帝国文学 明44・8)

【ハイン編】

あまをとめ(森鷗外訳 国民之友 明22・8)
「ロオレイ」(踏青軒主人訳 海潮 明24・5)
ロレイの歌(雲峯訳 女学雑誌 明24・12)
ローレイ(紫苑山人訳 女学雑誌 明25・5)
新詩(うらみ)(桐生悠々訳 日本人 明30・2)
ハインが詩(太田玉茗訳 文芸倶楽部 明30・4)
ハインが詩(恋のかばね/わかれ/鶯の歌)(太田玉茗訳 少年文集 明31・5)
花がたみ(皐月の野辺)(忘我訳 帝国文学 明31・6)
ハインが詩(絵すがた/君がこころ/ほか)(太田玉茗訳 少年文集 明31・7)
ハインが詩(夢がたり/君が姿/ほか)(太田玉茗訳 少年文集 明31・8)
独詩評釈 あまをとめ(内海月杖訳 明星 明33・5)
独詩評釈 薄暮(内海月杖訳 明星 明33・6)
妖姫(久保青琴漢訳 明星 明33・7)
独詩評釈 牧童(内海月杖訳 明星 明33・9)
ハインが詩(愛世の旅/少女/ほか)(太田玉茗訳 文芸倶楽部 明33・11)
はま辺(紅雪訳 心の花 明34・5)
西の歌屑(無題)(かげろふ訳 心の花 明35・1)
西詩断片(無題)(かげろふ訳 心の花 明35・5)
破船者(孤松生訳 文芸界 明35・7)
蕉影(無題)(尾上柴舟訳 明星 明35・9)
夢路(かげろふ訳 心の花 明35・11)
くらら姫(大塚楠緒子訳 明星 明36・1)
明眸(無題)(尾上柴舟訳 帝国文学 明36・4)
春の歌/蓮の花(疑独庵訳 政教時報 明36・5)
蜃のときま(尾上柴舟訳 新声 明36・10)
ハイン三章(無題)(おもはれ人訳 明星 明37・9)
はいね三章(無題)(おもはれ人訳 明星 明37・11)

神詣で(月柳痴人訳 ハガキ文学 明37・11)
花の少女(上田敏訳 音楽 明38・7)
フラウ、メツテ(白潮子訳 新声 明38・11)
訳詩三章(海辺にて)(逸名子訳 白百合 明38・12)
ハインリヒ(熊本謙二郎訳注 英語の日本 明41・1)
ハインの詩(あま少女/春の歌/弥生)(永井潜訳 心の花 明41・6)

《論考》「ハインと日本(鈴木和子)」

35 シラー集

●シラーの受容は、明治10年代は自由民権運動の高揚の中で『ウィルヘルム・テル』の翻訳から始まったが、20年代に至ると、自己の運命に諦観し刑場に赴く『メアリー・スチュアート』の訳がしばしば為される。また、鷗外、樗牛、抱月らの美学研究の影響なのか、詩が多く訳された。希望(可行生訳 国民之友 明22・3)
シラー短詩五首(訳者不記 国民之友 明22・3)
シラーの短詩五首(訳者不記 国民之友 明22・3)
野辺おくりの歌の解(や・た訳 以良都女 明22・9)
鐘歌失火節翻訳並に評釈(遠湖居士訳 文則 明24・4)
可憐嬢(石松子訳 女学雑誌 明25・2)
愛の光(美登里訳 青年文学 明25・6)
アルペン山の狼夫(大和田建樹訳 日本之少年 明27・9)
マリア、スチュアルト(自適・指月訳 国民之友 明29・5)

コルムブス(竹の舎訳 海国少年 明30・9)
ウィルヘルム、テル(中内蝶二訳 新文芸 明34・1)
少女の歎(中村健一郎訳 心の花 明34・2)
オルレアンのをとめ(mss訳 心の花 明34・4)
狼夫(柴田守中訳 明星 明35・4)
騎士(柴田守中訳 明星 明35・5)
人質(柴田守平訳 新声 明36・10)
ウィルヘルム、テルの概略(新保一村訳 少年界 明36・12)
詩人と自然(残月訳 裏錦 明37・2)
喜劇 叔平姪平(橋本青雨訳 文芸倶楽部 明38・1)
沈男(英男訳 文庫 明38・3)
精舎(厨川白村訳 白百合 明38・6)
悲劇 メリイ女皇(桜井鷗村訳 英文新誌 明38・6)
誰が罪(橋本青雨訳 帝国文学 明38・8)
芸術の使命(白潮子訳 新声 明38・10)
イビュクスの鶴(川下江村訳 明星 明38・10)
ヘロオとレアンデル(星堂子訳 明星 明38・12)
群盗(仲野秀治訳 文章世界 明39・5)
狼(潮音訳 アカネ 明41・1)
《論考》「シラーの実像(池内紀)／シラーと女性読者(渡邊洋子)」

[36] プーシキン／レールモントフ集

●ロシア文学はプーシキンから始まる。だが、日本のプーシキン受容は明治期に『大尉の娘』を高須治助がいち早く訳すが、その後はツルゲーネフ、トルストイらの影に隠れた感がある。

プーシキン編

偽皇子(石川残月庵訳 裏錦 明26・3)

御苑の露(林丘子訳 裏錦 明26・10)

漁夫と魚との童物語(嵯峨の屋お室訳 家庭雑誌 明26・12)

アンデエロ(無名氏訳 裏錦 明28・1)

うき草(冬の夜の野道)(嵯峨の屋お室訳 中学世界 明33・11)

漁夫物語(佐伯氏訳 女鑑 明35・3)

すて児(橋本青雨訳 新潮 明治38・10)

葬具師(八風訳 心の花 明39・7)

三枚札(小宮破霄訳 明星 明39・11)

決闘(梧桐夏雄訳 帝国文学 明40・2)

駅遞局長(荒井恒雄訳 帝国文学 明40・5)

一撃(与謝野寛・茅野蕭々訳 新小説 明42・5)

葬儀屋(魚住衛訳 帝国文学 明43・8)

【レールモントフ編】

カザツクの児守歌(嵯峨の屋お室訳 少年園 明24・12)

ぬけうり(森鷗外訳 しがらみ草紙 明25・12)

アシユク、ケリブ(影竹子訳 裏錦 明28・12)

ソネット(加島汀月訳 新声 明36・2)

宿営の二夜(ゆき子 軍事界 明36・11)

カフカズの囚はれ人(加島汀月訳 文芸界 明37・2)

東方物語(嵯峨の屋お室訳 文芸倶楽部 明38・10)

宿命論者(栗林枯村訳 新古今文林 明38・12)

宿命論者(森鷗外訳 明星 明40・2)

《論考》小金井きみ子訳「俗泉記」(中林良雄)／「ここに日本プーシキン学会ありて」(笠間啓治)／レールモントフと正宗白鳥(松本鶴雄)／

[37] ゴーゴリ集

●明治27〜44年までを集成。芥川龍之介の初期作品に大きな影響を及ぼしたゴーゴリの明治期移入の全体像を編集。

カザツクの鉄騎(残月庵主人訳 裏錦 明27・8)

老武者(徳富蘆花訳 国民新聞 明28・8)

肖像画(二葉亭四迷訳 太陽 明30・1)

諷刺小説 狂人日記(今野愚公訳 天地人 明32・3)

むかしの人(二葉亭四迷訳 早稲田文学 明39・5)

狂人日記(二葉亭四迷訳 趣味 明40・3)

外套(西本翠蔭訳 文芸倶楽部 明42・6)

喜劇 求婚(高須梅溪訳 演芸画報 明44・8)

《論考》明治期ロシア文学翻訳年表稿

[38] トルストイ集 I

●ツルゲーネフに続いて日本に紹介されたロシア文学者はトルストイであった。明治19年に始まり、多くの作品が翻訳され、現代に至るまで深い影響を与えた。明治20年代の翻訳を収録。

瑞西館に歌を聞く(森鷗外訳 国民新聞 明22・11)

黄金鳥(松居松葉訳 国民新聞 明25・2)

春風裡(内田魯庵訳 女学雑誌 明26・4)

おひたちの記(林丘子訳 裏錦 明26・5)

懐涙(内田魯庵訳 国民之友 明26・8)

小児と馬術の稽古(石川残月庵訳 国民新聞 明26・8)

二人の老翁(操岳仙史訳 裏錦 明27・1)

春宵小話(訳者不記 家庭雑誌 明27・9)

[39] トルストイ集 II

●明治30〜35年までに発表された翻訳を収める。この後にも夥しい訳が発表されるが、入手困難な時代のもを優先し収録する。

二人巡礼(内田魯庵訳 大日本 明30・1)

労働(松濤庵主人訳 裏錦 明30・1)

天国の門(キ、エ訳 裏錦 明30・3)

マリチク、ス、パリチク(有坂生訳 家庭雑誌 明30・4)

スラートの珈琲店(常北生訳 裏錦 明30・9)

浮沈(軍治柳蔭訳 裏錦 明30・11)

囚人(瀬尾枕水訳 裏錦 明31・5)

侵入(安孫子貞治郎訳 東京評論 明34・1)

あはれ支那人(質軒居士訳 太陽 明34・1)

うつゝの夢(丹下時子訳 女学世界 明34・4)

セバストウポルの火花(嵯峨の家訳 太陽 明34・7)

セバストウポルの落城(嵯峨の屋主人訳 太陽 明34・12)

大悪魔と小悪魔(長谷川天溪訳 少年世界 明35・4)

夜と朝(森しづか訳 小天地 明35・5)

アンナカレーニナ(瀬沼夏葉・尾崎紅葉訳 文藝 明35・9)

新竹取物語(武田桜桃訳 女学世界 明35・9)

三老人(小川煙村訳 婦人界 明35・12)

《論考》「トルストイと泉鏡花」(中本信幸)／

[40] ツルゲーネフ集 I

●言文一致体の最も早い作品として二葉亭の翻訳「あいびき」が明治21年に発表されたが、日本におけるツルゲーネフの人気は高く、45年まで絶えることなく毎年幾点かの翻訳が発表された。まさしく日本文学の小説技法の模範となった作家といつていい。

あいびき(二葉亭四迷訳 国民之友 明21・7)

めぐりあひ(二葉亭四迷訳 都の花 明21・10)

憂国憐才 美人草(佐波武雄訳 日本之時事 明22・4)

馬鹿な男(森鷗外訳 日本之文華 明23・1)

羅馬(森鷗外訳 東京新聞 明23・6)

二羽の鳩(宮崎湖処子訳 国民新聞 明23・6)

該撒(森鷗外訳 文則 明24・4)

露国文豪ツルゲーネフの書翰(林丘子訳 裏錦 明26・3)

林と野と(探美生訳 しがらみ草紙 明27・8)

唾の恋(嵯峨の家お室翻案 国民之友 明29・1)

かきおき(嵯峨の家お室翻案 国民之友 明29・2)

実業王と其子(嵯峨の家お室翻案 国民之友 明29・4)

ツルゲーネフ氏随見随記(竹村智童訳 国民之友 明30・2)

夢がたり(二葉亭四迷訳 文芸倶楽部 明30・4)

時計(竹村智童訳 国民之友 明30・8)

猶太人(二葉亭四迷訳 国民之友 明31・1)

無一文(古松軒主人訳 裏錦 明31・10)

散文詩(上田敏訳 心の花 明34・4)

おもかげ(上村左川訳 文芸倶楽部 明34・10)

《論考》明治ジャーナリズムのなかのツルゲーネフ(柳富子)

[41] ツルゲーネフ集 II

●明治30代後半のおびただしい翻訳から。ツルゲーネフは明治期を通じて一四〇点以上翻訳発表された。

死(武井自適訳 明星 明35・2)

ツルゲーネフ小品(瀬沼夏葉・尾崎紅葉訳 新小説 明35・3)

いまはの恋(白水郎訳 心の花 明35・4)

髑髏(瀬沼夏葉訳 俳菰 明35・5)

雨窓奇談(嵯峨の家お室訳 太陽 明35・6)

非凡人(国木田独步訳 小天地 明35・6)

鳥うち(加島汀月訳 文芸界 明35・7)

悲痛の調(田山花袋翻案 文芸倶楽部 明35・12)

世のをはり(栗原古城訳 明星 明35・12)

雀(栗原古城訳 明星 明36・2)

郡の医者(嵯峨の家お室訳 太陽 明36・4)

白鳩(栗原古城訳 明星 明36・4)

海上(蜻蛉子訳 心の花 明36・5)

山嬢(栗原古城訳 明星 明36・6)

恋(内海月杖訳 明星 明36・6)

生ける屍(窪田通治訳 新声・明36)

山番(嵯峨の家主人訳 文芸倶楽部 明36・6)

おとなひ(栗原古城訳 明星 明36・8)

隣の家(嵯峨の家お室訳 女学世界 明36・11)

夢まぼろし(山田枯柳訳 裏錦 明37・1)

露国小説 二度恋(雄島浜太郎・木村北溟訳 新小説 明37・4)

おとづれ(内海月杖訳 明星 明37・4)

虚影(吉川英男訳 帝国文学 明37・5)

すゞめ(ツルゲーネフ小品(夏葉女史訳 裏錦 明37・6)

海のほとり(山田枯柳訳 裏錦 明37・9)

散文詩(藤井紫影訳 帝国文学 明37・9)

花物語(生田星郊訳) 明星

十日物語 可憐魔



時フロンセス府に一少年あり、新に先人の遺業を受けて富有の身たり、里は當時の紳士に稱ふ格調、舉動等、大凡交際社會に面目を作すべき武技に妙を得て、下流の欺瞞する所となり、里は名をフヘリゴ、アルベスガイと云ひ、フヘリゴも亦少年紳士の常徑として、キヲウパナと云ひ做して當時フロンセス府第一等の美人と傳へる一淑女に戀したり、里は其淑女の一顧を得んため、或は基座なる宴會を催して賓客の多きを誇り、或は祖先傳へ来る古器珍寶を陳列して其門閥を誇り、其他駁騾、説馬、馬上格闘等の興行ありと、未だ谷て其場に上らざると、上りて勝利冠を得ざるとなかりき、里は以て情人の意を隔すに足らずして巨多の珍寶を贈進せり、里は、數百年來秘藏されたる古器を贈り、珠玉を贈り、遂に其資産を盡

げ盡して賄ひ得たるもの皆以てキヲウパナの家に運べり、然れどもキヲウパナは實に美人なりしのみならず、亦誠實の婦人なりき、里は其目を喜ばす所の同僚の爲に其心を動かさざるのみならず、男妓の風流容貌にすら意を注ぐものならざりしかば、少年紳士の情を寄せ思を寄せ、前後堆積せしめたる賄物を以て、目を過る雲の如くに看ざりしなり、幾重重疊の家を舉げて灰燼に付したるもの、如く、万金散し盡して一物も得ず所なく、里の面目と思へば一貫見となりたり、幸にして舊に堪えざる一顧の田園の殘れるありて、幸して朝歌夕餐の料を給せり、然して此際里に猶ほ一個の所有物あり、其を其を自國の情人を愛するが如くに愛し、其資産をば無効の愛に消費と云うて惜むとなかりし後にも、里は此一物のみは敢て手を寄げざりしなり、是は即ち其家藏にして、其美、其高、其飛揚するの高く且つ遠くして其の速かに獲を獲み來ると、一ありて二なるべしと傳ふる

十日物語之中／可憐魔 宮崎湖遊子訳 国民新聞 明治25年5月20日 80

腹黒き童(柴田守中訳 明星 明36・6)
月十図(藤井紫影訳 帝國文学 明36・7)
まっつの光(相馬御風訳 明星 明36・9)
鐘(川上桜翠・相馬御風訳 明星 明36・10)
水滴(松本信夫訳 心の花 明37・10)
雛菊(松本信夫訳 心の花 明37・12)
道化役者(梧桐夏雄訳 明星 明38・1)
月物語(悠々野夫訳 新声 明38・3)
白鳥物語(野尻抱影訳 白百合 明38・7)
隊商(梧桐夏雄訳 明星 明38・11)
画のない画本(山君訳 心の花 明39・1)
狂言衣大名(杉谷代水訳 早稲田文学 明39・3)
御墓の薔薇(三浦白水訳 心の花 明39・3)
月物語(第十夜)(三浦白水訳 心の花 明39・4)
舞踏会(三浦白水訳 心の花 明39・7)
花の舞踏(三浦白水訳 心の花 明39・10)
《論考》「少年文学」考(榎原／明治翻訳文学の位相(川戸)

47 イプセン集

●日本におけるイプセンは、新劇の興隆に大きな力となると同時に女性解放運動に大きな役割を演じた。イプセン紹介期の作品10点余を収録。
〔棟梁ソルネスの一節〕(無署名 国民新聞 明26・3)
したゝかもの(岸上質軒訳 文芸倶楽部 明30・5)

48 ストリンダベリ集

●ストリンダベリの翻訳は大正期に競うように複数の全集が刊行されるが、明治期にもイプセンの陰に隠れながら、上田敏、森岡外が先駆となつて翻訳が始まる。
北欧自然派の戯曲論(上田敏訳 中央公論 明37・5)
父親(上田敏訳 新小説 明40・1)
情火(吉田白甲訳 新思潮 明41・1)

49 メーテルリンク集

強者(林久男訳 帝國文学 明42・11)
砂漠の夜(訳者不記 新思潮 明43・3)
毒風(林久男訳 歌舞伎 明44・1)
一人舞台(森岡外訳 女子文壇 明44・1)
真夏の日(田波御白訳 帝國文学 明44・7)
友達(楠山正雄訳 早稲田文学 明45・7)
熱風(M・K生訳 新日本 明45・7)
《論考》正宗白鳥から見たストリンダベリ(中林良雄)／「日本のストリンダベリ初演(毛利三彌)」
をさな兒の最期(大塚楠緒子訳 女学世界 明35・1)
平和(田山花袋訳 太陽 明35・10)
メーテルリンクの劇詩ベリアスとメリサンダ(正宗白鳥訳 新声 明35・11)
マアテルリンクの脚本(モンナ・ワナナの梗概)(森岡外訳 心の花 明36・6)
盲目(中島孤島訳 太陽 明36・11)
西班牙牙(田山花袋訳 太陽 明38・9)
モナバ、ワナナ(佐藤紅緑訳 文芸界 明38・11)
不朽の愛(高須梅溪訳 太陽 明38・11)
沈黙(西村醉夢訳 太陽 明39・2)
近代の戯曲(平野万里訳 明星 明39・6)
ひとつるたま(上田敏訳 心の花 明39・11)
暗影(温室／火取玉／心／愁の室)(上田敏訳 明星 明41・1)
脚本「蒼の花」(千葉掬香訳 明星 明41・1)
時のうれひ(絶望)(折竹蓼峯訳 文庫 明41・4)
女(土岐哀果訳 女子文壇 明41・8)
顕現(畏怖)(内藤濯訳 帝國文学 明41・10)
「温室」(祈祷／たましひ／病院／めつき)(上田敏訳 スバル 明42・2)
冬の希望(広瀬青波訳 アカネ 明42・3)
闇入者(茅野蕭々訳 早稲田文学 明43・4)
青い鳥(金星草訳 スバル 明43・5)
温室より(影／午後／室のおもひ／疲労)(内藤濯訳 帝國文学 明43・6)
Quince Chansons より(後藤末雄訳 帝國文学 明43・10)
戯曲 盲目(森与太郎訳 劇と詩 明43・10)
家の内(一宮栄訳 芸文 明44・1)
日常生活の悲痛(和氣律訳 帝國文学 明44・11)
室内(北沢汎造訳 帝國文学 明44・12)
タンタジルの死(金子範二訳 太陽 明44・12)

50 イタリア文学集

《論考》メーテルリンクの受容(白鳥と天溪の周囲)(中林良雄)／「ユゴー」「死刑囚最後の日」翻訳の三態(谷口靖彦)
●明治31年に発表の資料「通俗地獄廻り」(新発掘)を始めとするダンテ移入の草創期の翻訳と、明治・大正期の日本の文壇を風靡するボッカッチョ、ダンテの翻訳併せて30点を収録。
【ダンテ編】
通俗地獄廻り(秋月すみ子訳 福音新報 明31・9)
びるぜん祈祷(上田敏訳 心の花 明35・1)
神曲の哀歌(英男訳 文庫 明38・5)
神曲(高田梨雨訳 明星 明39・1)
ありとあらゆるわが思(上田敏訳 明星 明40・1)
ダンテ詩選(上田敏訳 家庭文芸 明40・1)
【ボッカッチョ編】
指環ノ裁判(山王山下の木葉天狗訳 朝野新聞 明19・9)
牧婦(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・4)
十日物語之中 可憐魔(宮崎湖処子訳 国民新聞 明25・5)
手むけの草(平田亮木訳 世界の日本 明29・9)
五彩雲(觀面／名ごりの花／夢のうつ／)(太田玉茗訳 文芸倶楽部 明30・4)
めぐりあひ(太田玉茗訳 文芸倶楽部 明30・6)
まごころ(太田玉茗訳 文芸倶楽部 明32・6)
女の鑑(浅野瀧虚訳 新文芸 明34・6)
拾日物語(高田梨雨訳 明星 明41・5)
喜劇／三箇條(尾崎紅葉訳・栗嶋狭衣脚色 文芸倶楽部 明42・8)
【ダンツィイオ編】
鐘楼(上田敏訳 帝國文学 明33・9)
艶女物語(上田敏訳 帝國文学 明33・10)
花園(たそがれ訳 明星 明36・9)
おぼし(梧桐夏雄訳 明星 明37・1)
ひつじ草(梧桐夏雄訳 明星 明37・11)
庵室(梧桐夏雄訳 帝國文学 明37・12)
春曙夢(大久保雨枝訳 心の花 明38・1)
燕の歌(上田敏訳 明星 明38・1)
光明道(篠懸／シオパンの即興樂をきゝて)(上田敏訳 明星 明38・8)
日影の花(まぼろし訳 白百合 明38・9)
生なる死(水木英夫訳 新声 明41・1)
ぢあるか(狭野茨園訳 アカネ 明41・9)
ふらんちえすか物語(石川戯庵訳 スバル 明42・9)
戯曲／秋夕夢(森岡外訳 歌舞伎 明42・11)
《論考》正宗白鳥とダンテ(中林良雄)／「明治文学とイタリア語イタリア文学」(灰谷慶三)

【別巻1】 明治期翻訳文学総合年表

●明治元年から45年までに刊行された西洋文学の翻訳作品の年表。

- ① 本巻全50巻それぞれの巻末にある作家別「明治翻訳文学年表」を統合し、さらに収録できなかった作家作品、および刊行中に見つかった翻訳作品を加えた総合年表。
- ② 各年内の配列は、原著者の国別（イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、ロシア、その他）。
- ③ 作品は、発表月、翻訳作品名、訳者（校閲者）、新聞雑誌名（単行書は発行人・出版社）、原著者名、原著の作品名を記述。

【別巻2】 明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》

総目次・総索引

●全50巻の内容を多角的に検索するための、目次・各種索引・文献・解説。明治期の翻訳文学を調査研究するために必携のツール。

- ① 総目次（40頁）
- ② 翻訳作品名索引（50頁）
- ③ 訳者索引（50頁）
- ④ 新聞・雑誌名索引（50頁）
- ⑤ 解説・エッセイ執筆者一覧（付「明治翻訳文学通信」総目次）
- ⑥ 全巻内容解説
- ⑦ 明治期翻訳文学年表・目録書誌（45頁）

図書館レファレンスに
*研究者必携

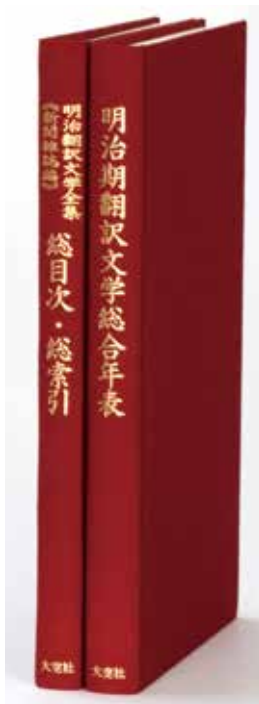
全2巻
【分売不可】

ISBN4-7568-0319-9

B5判・総650頁

上製・クロス装

定価（本体 35,000 円＋税）



・別巻1（明治期翻訳文学総合年表）より

【明治33年】

イギリス
【明治三十三年（一九〇〇）】

1月 キップリング作 虎退治 土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界（5月） キップリング「ジャングル・ブック」
5月 英詩評釈（マリナ） 戸沢姑射評釈 明星（7月） テニソン「[Marian]」
5月 聖人か盗賊か 原抱一庵訳 東京朝日新聞（15日） リットン「ユージン・アラム」
5月 残月塔秘事 原抱一庵訳 東京朝日新聞 少年世界（8月） ドイル（前半が「クルンバーの謎」、後半が「四つの署名」）
6月 キップリング作 庭園の大戦争 土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界（8月） キップリング「ジャングル・ブック」
8月 英詩評釈（空屋） 戸沢姑射評釈 明星 テニソン「[The Deserted House]」
8月 少年魯敏遜 石井研堂訳 少年世界 デフォール「[ロビンソン・クルソーの生涯と冒険]」
9月 軍用の獣類 土肥春曙・黒田湖山共訳 少年世界（11月） キップリング「ジャングル・ブック」
9月 天なる嘆き 蒲原有明訳 新声（9月増刊） ロセッティ
9月 通信 新陰陽博士 原抱一庵訳 文芸倶楽部 ドイル「[緋色の研究]」
10月 *英雄崇拜論 住谷天来（八朔）訳 福永文之助（養正社書店） カーライル「[英雄と英雄崇拜]」
10月 リスベス 島村抱月訳 翻訳時報（12月） キップリング「[Isopet]」
11月 薄因縁 氣賀溶々訳 慶応義塾学報 テニソン
11月 デュード・ラブスキューア 千葉揚香訳 翻訳時報 ハーディ「[日陰者ジュード]」
11月 断腸 名ばかりの妻 深沢由次郎訳 翻訳時報（33年12月） パーサー・クレイ
11月 ドン・ファンの一節 木村廉太郎訳 明星 バイロン「[Don Juan]」
12月 *英詩 薄命児 田中太郎訳 福永文之助（養正社書店） スレットン「[Little Meg's Children]」

アメリカ
3月 少女の望

【明治45年】

イギリス
【明治四十五年・大正元年（一九一〇）】

1月 薔薇の女 本間久雄著 早稲田文学
2月 あらし序幕 坪内逍遙訳 早稲田文学
2月 ニコラス・学校を去る事 増田藤之助訳注 英語青年（3月）
2月 手提箱 森健峰訳 時事新報（2月5日）3月13日、38回連載
2月 喜 陽気な女房 松居松葉訳 文芸倶楽部
2月 凶賊サイクスの逃亡 深沢由次郎訳注 英語青年（3月）
2月 思い違ひ 鶴洲生訳 慶応義塾学報
3月 あひびき 中島忠利訳 アララキ
3月 秘密の扉 無名氏訳 文芸倶楽部
4月 *リヤ王 坪内逍遙訳 早稲田大学出版部
4月 スティーブンソンが小児の歌 厨川白村訳注 英語青年（1日、15日）
4月 訳詩三章（ころ／白鳥／夢） 山宮允訳 アララキ
5月 *小枝新吉 堺枯川（利彦）訳 松本龜造（公文書院）
5月 *裏三階 浦瀬白雨訳 内外出版協会
5月 暮光 山宮允訳 アララキ
6月 *運命 テス 前編 山田行彦（直）訳・刊 樽原友吉（文盛堂書店）
6月 *訳 デッケンズ物語 大橋栄三訳 鹿島長次郎（興文社）
6月 リア王 磯辺弥一郎訳注 中外英字新聞（大正2年8月）
ズーダーマン
シェイクスピア「[あらし]」
ディケンズ「[ニコラス・ニクルビー]」
ワイルド「[真面目が大事の梗概]」
シェイクスピア「[ウインザーの陽気な女房]」（帝國劇場二月狂言台本）
ディケンズ「[オリヴァー・トウィスト]」
キップリング
ブラウニング
ドイル「[ぶな屋敷]」
シェイクスピア「[リア王]」
ステイブンソン「[子供の歌謡より]」
イエイツ「[アイルランド]」
ディケンズ「[オリヴァー・トウィスト]」
ジェローム「[裏三階／哲人の戯れ／ニコラス・スナイダースの魂／コウナ夫人の間違ひ／親切の価値／ウルリチの恋]」
イエイツ「[アイルランド]」
ハーディ「[ターバヴィル家のテス]」
ディケンズ「[オリヴァー・トウィスト／デイヴィット・コバーフィールド大なる遺産]」
シェイクスピア「[リア王]」

◆明治33年と45年、「イギリス」の翻訳点数でも〈激増〉と言っているほど量が増えたことが一目瞭然。本年表で初めて量的比較が容易になった。

明治期翻訳文学総合年表

見本縮小

判型：B5判（257×182ミリ）

明治翻訳文学全集

《翻訳家編》

全20巻

全収録作品目録

※各巻末に翻訳家ごとの「明治翻訳文学年表」付き。
※《論考》の「」は「明治翻訳文学と私」で連載されたもの。
※本目録中の作品年代は年月(連載は初回の月のみ)を記載。

① 三遊亭円朝集

●日本近代の言文一致体の文学を語るとき、円朝(1839~1900)の語りを抜きにすることはできない。モロパッサンの「親殺し」の翻案「名人長二」や探偵小説の初期作品ともいわれる『松の操美人の生理』などを収録。

欧州小説 黄薔薇(原著者不詳 金泉堂 明20・4)
松の操美人の生理(原著者不詳 大川錠吉 明21・5)(全四十四席のうち第一席~第十二席まで収録)
名人長二(モロパッサン著 中央新聞 明28・4)
《論考》「森鷗外訳「即興詩人」…「源氏物語」と「神曲」を結ぶもの(剣持武彦)」

② 福地桜痴・益田克徳集

●明治期を新聞人として涉った幕臣桜痴(1841~1906)は維新史観を拒否して生きた人である。彼が伝統文化に与し、西欧文化の波に洗われながら歌舞伎革新に向かったのは時代の流れであつたらう。桜痴はユゴーの「レ・ミゼラブル」翻案「あわれ浮世」ほかを、益田(1852~1903)は言文一致体として評価の高いリットンの翻訳「夜と朝」を収録。

【福地桜痴編】
あわれ浮世(ユゴー著 太陽 明30・1~4)
【益田克徳編】
夜と朝(リットン著 博文館 明26・10)
《論考》「夜と朝」の文体について(川戸)」

③ 井上勤集

●井上勤(1850~1928)は、明治10年代の西欧文学移入に大きな役割を果たし、とりわけヴェルヌを精力的に紹介した。その井上が明治13年に最初に手がけた『九十七時間二十分』/月世界旅行(10冊本を一巻にまとめて収録する。九十七時間二十分間月世界旅行(ヴェルヌ著 大阪・

黒瀬勉(三木美記 明13・11)
序(片岡徹) 凡例

第一巻(砲銃社/社長珍事報告/社長演舌後会 衆人氣)
第二巻(ケンブリッジ)天象台之返答/月世界之説/米国人月世界事情之不学及信用/大砲弾丸之煩詞
第三巻(弾丸煩詞之続/大砲沿革之略伝/火薬之疑問/一千五百万人中一人之敵/フロリダ)及「テキサス」
第四巻(資本金/石丘/鶴嘴、鋤及ヒ鍬/大砲製造落城ノ景況/「コロンビヤド」砲)
第五巻(「コロンビヤド」之続/電信報知/汽船阿土蘭多号ノ旅客/演舌ノ大会)
第六巻(演舌ノ大会之続/月球関係之討論)
第七巻(月球関係ノ討論之続/社長及「ニコール」氏ノ争門)
第八巻(社長及「ニコール」氏ノ争門之続/米国之新府民ノ弾丸ヲ以テ車ニ換ユ)
第九巻(巨大ノ望遠鏡/結末ノ談話)
第十巻(巨砲発射/巨砲発射後万衆の景況/月世界旅行弾丸之発見)
《論考》「井上勤の『月世界旅行』…本邦初の本格サイエンス・フィクション(川戸)」

④ 坪内逍遙集

●逍遙(1859~1935)といえはシエイクスピアであるが、10年代、20年代の訳業は目に触れることが少ない。稀覯書として名高いスコットの『春風情話』、アディソンの作品、および初期翻訳作品の序文を集成する。『小説神髓』と並び、『慨世士伝』の序文は近代文学の方向付けをした優れた文学論となっている。本巻では明治期に脚光を浴びたスコット、リットン、エインズワース、アディソン、ハウプトマンに心を抱いてきた姿を訳業にて集成。
春風情話(スコット著 中島精一出版 明13・4)
開巻悲憤 慨世士伝 はしがき(リットン著 晩青堂

明18・2)
雷小僧(エインズワース著 都新聞 明25・10)
扇子使用法の練習(アディソン著 早稲田文学 明26・10)
ジョセフ・アディソンの散文(アディソン著 国学院雑誌 明28・9)
心の解剖(アディソン著 新小説 明30・1)
ハウプトマンの「孤鶯」(ハウプトマン著 趣味 明39・8)
《論考》「明治二十年代翻訳文学とジャンル編成(井上健)」

⑤ 森田思軒集 I

●思軒(1861~1897)の評価は、生前翻訳王と謳われながら、没後一転する。しかし、明治期の翻訳文学は思軒を外して語れず。「思軒全集」は第一巻のみで未刊となっている現状に鑑み、初期翻訳作品を渉猟して、「明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》」とあわせ思軒訳業の全容を全二巻で提示し、思軒再評価の機運を促す。Iで初期翻訳の短篇を集成、明治期の翻訳史の原点を探る。長篇をIIに収め、《新聞雑誌編》と合せその全業績を浮彫りとする。

印度太子舎摩の物語(原著者不詳 郵便報知新聞 明19・10)
英国士官の物語(原著者不詳 郵便報知新聞 明20・3)
貧富(原著者不詳 郵便報知新聞 明20・8)
夢中夢(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・1)
定数(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・7)
女旅客(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・11)
右足(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・11)
密封書(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・12)
元日(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・12)
倫敦辻馬車(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・12)
時計獄(原著者不詳 郵便報知新聞 明21・12)
代言人(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・4)
狼声(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・5)
一大奇術(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・5)
まちがひ(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・5)
是はソモ(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・5)
巴里探偵の話(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・6)
歳盡(スーヴェストル著「屋根裏の哲人」 都の花 明24・1)
西文小品(旅行の説(ベーコン著 報知叢話 明24・4)
西文小品(費の説(ベーコン著 報知叢話 明24・4)
滑稽氏(エンゲル著 国民之友 明25・12)
不思議の後家(エンゲル著 国民之友 明25・12)
一シリング銀貨の履歴(アディソン著 国民之友 明26・1)

⑧ 口絵より *各巻に装幀・挿画等の貴重写真収載



⑥ 森田思軒集 II

千人会(エツチワース著 国民之友 明26・2)
《論考》初期翻訳文学における思軒と二葉亭の位置…その文体を中心に(川戸) / 「森田思軒の伝記を執筆して(谷口靖彦)」
金驢譚(アブレリアス著 郵便報知新聞 明20・1~2)
大氷塊(ヴェルヌ著 郵便報知新聞 明21・2~4)
探征隊(ヴェルヌ著 郵便報知新聞 明22・1~3)
《論考》若き日の森田思軒…矢野龍溪との交流を中心に(川戸) / 「歴史はフィクションより面白い…森田思軒との出会い(加賀野井秀二)」

⑦ 黒岩涙香集

●「萬朝報」を拠点とした涙香(1862~1920)の探偵小説は一世を風靡した。本書では、その中から傑作を選び一巻とする。
金剛石の指環(原著者不詳 岩本五一 明23・7)
恐ろしき五分間(原著者不詳 岩本五一 明23・7)
婚姻(サッカレー著 岩本五一 明23・7)
紳士三人(原著者不詳 岩本五一 明23・7)
裁判小説人耶鬼耶(ガボリア著 大川屋 明26・4)
《論考》森田思軒と黒岩涙香…「レ・ミゼラブル」の翻訳をめぐる(川戸) / 「涙香小説の報道性(堀啓子)」 / 黒岩涙香作品目録(伊藤秀雄)

⑧ 森鷗外集 I

●明治期の西洋翻訳文学史上で鷗外(1862~1922)の果たした役割は突出している。明治期に新聞雑誌に発表された翻訳を年代順に収録し、「明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》」とあわせて翻訳初出集成をめざす。Iは、明治18年に

⑪ 原抱一庵集

●マーク・トウェインの訳「該撤惨殺事件」に
対する山縣五十雄の誤訳論争によって命を縮め
た抱一庵(1866~1904)だが、それは一つの
時代に殉じた翻訳家の悲劇であった。その訳業
を一つの文化を遵守した文学者の姿と評価し、
ここに追悼の一巻を編集。

術士(原著者不詳 郵便報知新聞 明22・11)
湖畔妖物(コリンズ やよい(東京新報付録 明25・3)
湖群妖物(コリンズ 東京新報 明25・3)
明月(原著者不詳 国民之友 明25・8)
食人会(マーク・トウェイン著 太陽 明36・6)
該撤惨殺事件(マーク・トウェイン著 泰西奇文
明36・9)

紳士(マーク・トウェイン著 泰西奇文 明36・9)
造人術(ルイ・ストロング著 泰西奇文 明36・9)
助言(マーク・トウェイン著 泰西奇文 明36・9)
無政府党と一夜(ドイル著 泰西奇文 明36・9)
大頓挫(モーパッサン著 泰西奇文 明36・9)
女探偵(モーパッサン著 泰西奇文 明36・9)
再び女探偵(モーパッサン著 泰西奇文 明36・9)
稀有の裁判(ドイル著 泰西奇文 明36・9)
無音の瀑(ドイル著 泰西奇文 明36・9)
名曲「愛禽」(エッジワース著 泰西奇文 明36・9)
庭園の快樂(ロルフ・クリソン著 新声 明41・4)
《論考》「明治の探偵小説の思い出(伊藤秀雄)」

⑫ 尾崎紅葉・小栗風葉集

●硯友社文学は旧派の文学といわれながら、紅
葉(1868~1903)は常に西洋文学に自らの小
説のアイデアを求めて創作活動を行なった。紅
葉訳はグリム、モリエール、ゾラなど、風葉
(1875~1926)はモーパッサンの翻訳を収録
し一巻とする。

【尾崎紅葉編】

恋山賤(ゾラ著 文庫 明22・10)
三すぢの髪(グリム著 読売新聞 明26)
彼利羅(シエリダン著 歌舞伎新報 明治28)
銃の銘(ボツカッチョ著 太陽 明30・12)
手迷ひ糸(ボツカッチョ著 新小説 明31・1)
阿蘭陀片(原著者未詳 太陽 明31・1)
をさな心(ドーデ著 新小説 明35・3)
女(モーパッサン著 新小説 明35・9)
路迷ひ(チエーホフ著 文芸倶楽部 明37・1)
霊符(フルダア著 新潮 明38・11)

【小栗風葉編】

応募兵(原著者不詳 新文芸 明34・6)
へそ日記(ツルゲーネフ著 新小説 明36・5)

堀田親子(モーパッサン著 新古文林 明38・5)
帰国(モーパッサン著 新潮 明39・8)
鬼子(モーパッサン著 太陽 明39・10)
血統(モーパッサン著 新潮 明39・11)
妹の子(ダヌンツィオ著 新潮 明41・2)
《論考》「掂げられた作品世界…外国文学を下敷き
に(堀啓子)」

⑬ 内田魯庵・嵯峨の屋お室集

●『罪と罰』『復活』の訳者として名高く、ペ
ンの労働者といわれる魯庵(1868~1929)は
多くの翻訳を残した。本書では「明治翻訳文学
全集『新聞雑誌編』」とあわせ、魯庵の明治期
の訳業を一巻で俯瞰する。二葉亭とならびロシ
ア語から直接ロシア文学の移入に尽力した嵯峨
の屋(1863~1947)の翻訳作品を合集。

【内田魯庵編】

巨人談(ヴオルテル著 三籟 明26・4~7)
如安外伝(シラー著 読売新聞 明25・6~7)
しきまみ(原著者不明 文芸倶楽部 明29・7)
極楽郷(『鳥留好語』(アンデルセン著 警醒社書
店 明26)

馬鹿者イワン(トルストイ著 学鑑 明35・6~9)
擬宝石(モーパッサン著 太陽 明38・1)
人間の要する地面幾許ぞ(トルストイ著 学鑑 明
44・9)

【嵯峨の屋お室編】

母と小児と遇った時(原著者不明 国民新聞 明23・3)
月夜のクレムリン岡(ザゴースキン著 国民之友(未
完) 明23・10)
寓意談(クルイローフ著 家庭雑誌 明26・9)
クルイローフの寓意談(クルイローフ著 家庭雑誌
明26・10)
熊及びおさな子(アフデーフ著 家庭雑誌 明26・11)
寓意詩(ドミートリエフ著 家庭雑誌 明26・9)
童話(ジュコフスキー著 家庭雑誌 明26・12)
オプロウモフの幼時(ゴンチャロフ著 しがらみ草
紙 明27・4)

田舎美術家(ツルゲーネフ著 太陽 明33・9)
救世主の画像に対して(コリツォフ著 中学世界
明33・11)
田舎家(ツルゲーネフ著 新小説 明34・11)
母の愛(アクサーコフ著 女学世界 明35・10)
私の祖父(アクサーコフ著 太陽 明35・12)
妖婦伝(ツルゲーネフ著 新小説 明36・3)
水車小屋(ツルゲーネフ著 新小説 明36・9)
《論考》内田魯庵とAポーブ…『文学者となる法』
における構想の原点(川戸)／「明治翻訳文学と
私」嵯峨の屋おむる蔵書一覽(枅内裕子)」

⑭ 馬場孤蝶集

●明治期に翻訳家として生きた孤蝶(1869~
1940)であつたからこそ「明治文壇回顧」を
書き残すことができた。慶応大学で欧州文学を
講義し続けた孤蝶の翻訳は、いわゆる「大陸文
学」作品に集中している。ドーデ、ゾラ、モー
パッサン、ツルゲーネフ、シエンキエヴィッチ
の訳は明治後半から大正期の文学状況を体现し
ていつた仕事であつた。

かたみの絵姿(原著者不明 文学界 明28・6)
あら磯(バルザック著 太陽 明29・9)
楽人のねたみ(ドーデ著 文芸界 明35・5)
海音潮声(バイロン著 婦人界 明35・7)
沖の小島(ドーデ著 青年界 明35・9)
終の教(ドーデ著 国文学 明38・10)
まごころ(モーパッサン著 国文学 明39・1)
金脳の人(ドーデ著 明星 明39・1)
六号室(チエーホフ著 芸苑 明39・1)
外光(ゾラ著 明星 未元) 明39・4)
わが小説(モーパッサン著 芸苑 明39・8)
同情(モーパッサン著 明星 明39・9)
田鼠(ゴザック伝説 明星 明40・1)
亡命者(原著者不明 慶応義塾学報(未完) 明40・4)
火と剣(シエンキエヴィッチ著 明星 明41・1)
断頭台(ツルゲーネフ著 新声 明41・1)
処女地(梗概)(ツルゲーネフ著 趣味 明41・12)
42・1)

初雪(モーパッサン著 慶応義塾学報 明42・4)
モニカ(梗概)(ブルジェ著 女子文壇 明42・7)
ブウル・ド・スイフ(モーパッサン著 三田文学 明
43・5)

《論考》円朝の生きた時代、孤蝶の生きた時代…
モーパッサン著「親殺し」の訳を軸にして(榊原)

⑮ 松居松葉集

●松葉(1870~1933)は劇作家として著名で
あるが、翻訳家としても多くの訳業を残してい
る。ゾラ、ホーソン、モリエール、シエイク
スピアなどを訳しているが、とりわけ、『鈍機
翁冒險譚』はセルバンテスの「ドン・キホーテ」
の最初の翻訳書として高く評価されている。本
書では、これとバーナードショアの「二十世紀」
を併載し一巻とする。

鈍機翁冒險譚(世界文庫第九十編)(セルバンテス著
博文館 明26・10~11)
二十世紀(ショア著 早稲田文学 明44・9)
《論考》「戦後」の始まった頃…圏外から見た学
会胎動期(稲村徹元)」

⑯ 田山花袋・国木独歩集

●花袋(1871~1930)のモーパッサンとの出
合いはあまりにも有名であるが、本書では花袋
の多岐にわたる西洋文学紹介の訳業を紹介し、
また独歩(1871~1908)はツルゲーネフの「決
闘家」、ゴッリキーの「人生」などを収録し、
自然主義文学と人生を考察する一巻とする。

【田山花袋編】

夕立(ミッチェル著 額才新誌 明23・6~7)
跛娘(ドーデ著 文芸倶楽部 明28・2)
古井水(原著者不詳 家庭雑誌 明28・5)
雛つ児(アンデルセン訳 少年世界 明30・6)
入寇(ドーデ著 太陽 明33・10)
灯台守(シエンキエヴィッチ著 太陽 明35・2)
最後の一滴(ブルジェ著 太陽 明35・7)
思ひ出(風/雨)(ヴェルレーヌ著 太陽 明36・2)
島の墳墓(ドーデ著 太陽 明36・10)
海上二里(ハイゼ著 新古文林 明38・7)
魔国(アラビアン・ナイト) 新小説 明39・3)
【国木独歩編】
宝(原著者不詳 女学世界 明35・9)
決闘家(ツルゲーネフ著 文芸倶楽部 明37・4)
人生(ゴッリキー著 近時画報 明39・5)
《論考》媒介者としての独歩…ヨーロッパから日
本、そして韓国へ(丁貴連)

⑰ 上田敏集

●フランス象徴詩の紹介者としての敏(1874~
1916)の役割は高い。訳業は『海潮音』にまと
められ名高いが、本書ではその初出を雑誌から収
載し、かつ敏の訳業全般を俯瞰する一巻とする。
まぼろし(ろちを和げたる)(ロチ著 帝国文学 明
33・8)

四季賦(マアエル著 帝国文学 明34・1)
黒瞳(アラルコン著 小説青燈集 明34・10)
夜のけはひ(ステイブンスン 帝国文学 明35・1)
鷹の歌(ゴッリキー著 芸文 明35・6)
小曲/恋の王座(ロセッティ著 万年艸 明35・12)
女の眼に映するよなきもの(ド・クインゼ著 心の
花 明36・1)
出現/至上善(ブラウニング著 万年艸 明36・2)
夢(ブリュドム著 白百合 明36・11)
鷺の歌(象徴詩)(ヴェルハーレン著 明星 明37・1)
春の貢(ロセッティ著 心の花 明37・1)
新生(ダンテ著 中央公論 明37・10)
出征(エレディヤ著 明星 明38・1)
象徴詩 法の夕(ヴェルハーレン著 明星 明38・6)
象徴詩 落葉(ヴェルハーレン著 明星 明38・6)

- 象徴詩 水かひば(ヴェルハーレン著 明星 明38・6)
象徴詩 花冠(レニエ著 明星 明38・6)
象徴詩 黄昏(ローデンバック著 明星 明38・6)
象徴詩 銘文(レニエ著 明星 明38・6)
象徴詩 愛の教(レニエ著 明星 明38・6)
海潮音 大飢餓(リイル著 明星 明38・7)
海潮音 床(エレディア著 明星 明38・7)
海潮音 信天翁(ボードレル著 明星 明38・7)
海潮音 よく見る夢(ヴェルレーヌ著 明星 明38・7)
海潮音 人と海(ボードレル著 明星 明38・7)
白瑛瑯 珊瑚礁(エレディア著 明星 明38・9)
白瑛瑯 破鐘(ボードレル著 明星 明38・9)
白瑛瑯 嗟歎(マラルメ著 明星 明38・9)
白瑛瑯 火宅(ヴェルハーレン著 明星 明38・9)
白瑛瑯 畏怖(ヴェルハーレン著 明星 明38・9)
白瑛瑯 賦(モレアス著 明星 明38・9)
白瑛瑯 白楊(オオバネル著 明星 明38・9)
白瑛瑯 海のあるたの(オオバネル著 明星 明38・9)
時鐘(ヴェルハーレン著 明星 明38・10)
心情(イエイツ著 明星 明38・12)
おもかげ(ヴァーリス著 明星 明39・1)
旅行(アンドレーエフ著 芸苑 明39・1)
春夜(詩神/詩人(ミユッセ著 明星 明39・4)
小曲 よそ人のあざむが如く(ダンテ著 芸苑 明40・3)
これはもと(アンドレーエフ著 趣味 明40・5)
温室/心(メーテルリンク著 哲学雑誌 明40・11)
クサカ(アンドレーエフ著 新小説 明42・1)
恐怖(沈黙、里子(アンドレーエフ著 中央公論 明42・5)
風とるひと(ランボー著 女子文壇 明42・5)
俊傑(ヴェルハーレン著 芸文 明43・6)
別離(フオール著 芸文 明44・1)

- 両替橋/夏の夜(フオール著 芸文 明44・5)
印象詩 お月様のなげき(ラフオルグ著 三田文学 明45・1)
印象詩 日曜日(ラフオルグ著 三田文学 明45・1)
印象詩 ビエロオの詞(ラフオルグ著 三田文学 明45・1)
印象詩 月の出の前の対話(ラフオルグ著 三田文学 明45・1)
印象詩(ラフオルグ著 三田文学 明45・1)
《論考》上田敏とアンドレーエフ…その翻訳を中心に(塚原孝/アンドレーエフ翻訳作品目録(塚原)

18 森嶋峰・佐藤紅緑集

- ドイル「緋色の研究」の訳「モルモン奇譚」は、日本の探偵小説史上論議的となつてゐる作品。この一編を初出紙から採録。家庭小説の代表的作家といわれる紅緑(1874~1949)が、作家研究で見落とされてゐる青年期に訳出したメーテルリンク、ユゴー、モーパッサン等の作品を探索してここに収める。

【森嶋峰編】

モルモン奇譚(ドイル著 時事新報 明34・11~35・1)

【佐藤紅緑編】

- モナ・ヴァンナ(メーテルリンク著 新潮 明38・2)
深森(ユゴー著 新潮 明38・2)
墓標(モーパッサン著 新潮 明39・9)
犠牲(ユゴー著 文芸倶楽部 明42・4)
何も言へぬ(ジョー著 演芸画報 明42・11)
《論考》『緋色の研究』翻訳書誌(榊原)/森嶋峰略歴

19 草野柴二・押川春浪集

- 草野柴二(1875~)はモリエールの翻訳家として有名だが、「明治翻訳文学全集(新聞雑誌編)」との重複を避け、アンドレーエフ、ツルゲーネフ、トルストイ、イブセンの翻訳を収めて、草野の訳業を俯瞰する。春浪(1876~1914)は、彼が生涯関心を抱き続けたステイブンスンの翻訳と新発掘のラム編の「シムベリン」訳を収録。

【草野柴二編】

- 喜劇 艶舌魔(モリエール著 明星 明37・6)
(参考)モリエール全集序 金尾文淵堂 明41・4
人間伝(アンドレーエフ著 明星 明41・1)
猶太人(ツルゲーネフ著 帝国文学 明41・3)
アンナ・カレンナ(トルストイ著 新声 明42・3)
絞首台まで(アンドレーエフ著 開拓者 明43・4)
【押川春浪編】
新アラビヤナイト(ステイブンスン 大学館 明36・7)
王女の旅(シェイクスピア(ラム) 婦人界 明36・11)
《論考》押川春浪と『新アラビヤナイト』(川戸ノ)「日本近代文学は翻訳に始まる(横田順彌)」

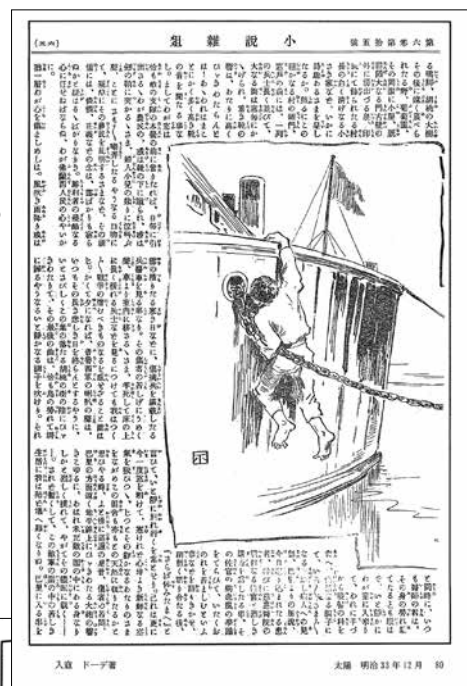
20 小山内薫集

- 森鷗外に翻訳家として認められ、その後自由劇場、築地小劇場で翻訳劇による近代劇導入に

果たした薫(1881~1928)の役割は大きい。「万年艸」時代の翻訳から、ゴッリキーの「夜の宿」「チエーホフ」「犬」、メーテルリンク「タンタデイルの死」に至る明治期の訳業を俯瞰する。

- 墓(モーパッサン著 万年艸 明35・10)
地の歌「セオキオ夜泊」の一節(シェリー著 万年艸 明35・11)
地の歌 蟋蟀と蟋蟀(キーツ著 万年艸 明35・11)
地の歌 鳴しき月日(ロセッティ著 万年艸 明35・11)
恋の葬(テニソン著 万年艸 明35・12)
彼得の母(ラーゲルレヴ著 帝国文学 明38・9)
呪詛(ラーゲルレヴ著 帝国文学 明39・3)
養(ニコライウス・ススキイ著 家庭文芸 明40・1)
牧歌(ハウプトマン著 太陽 明40・8)
使徒(ハウプトマン著 太陽 明41・1)
墓畔(ラーゲルレヴ著 帝国文学 明41・1)
貧民院(ハイド、グレゴリー合作 早稲田文学 明42・1)
砂時計(イエイツ著 歌舞伎 明42・1)
犬(チエーホフ著 新小説 明43・7)
夜の宿(ゴッリキー著 三田文学 明43・11)
タンタデイルの死(メーテルリンク著 三田文学 明45・4)

《論考》「内田魯庵とハズリットの謎(泉谷寛)」



死のルイゲルン

タンタデイルの死

(モリス・マタリント)

- 人物
タンタデイル 坂東かつみ
イグレエス 市川松 馬
ペレンダエール 市川松 馬
アドロワール 市川松 馬
女王の侍女三人 市川松 馬
第一幕
城を見下ろす塔の頂上
イグレエス、タンタデイルや、今夜は初めての晩だから、睡気味が悪いだらう。もう海が

明治翻訳文学全集 《新聞雑誌編》

各巻分売可

★残部極少の巻は分売できかねる場合があります。ご了承ください。

全 50 巻・別巻 2 揃 (本体) 785,000 円

*たとえばこんな組合せもできます。
ご要望に合わせてお求めください。

国・地域別セット

イギリス編 全 16 巻 揃 240,000 円	
1～4.	シェイクスピア集 I～IV
5.	スコット／ブロンテ集
6.	ディケンズ集
7.	ステイーブンソン集
8.	ドイル集
9.	コリンズ集
10.	ワイルド集
11.	サッカレー／キャロル集
12.	キプリング集
13.	十八世紀イギリス文学集
14.	リットン集
15, 16.	イギリス詩集 I・II
アメリカ編 全 6 巻 揃 90,000 円	
17.	アーヴィング集
18.	ホーソーン集
19.	ポー集
20.	マーク・トウェイン集
21.	バーネット集
22.	アメリカ詩集
フランス編 全 11 巻 揃 165,000 円	
23.	モリエール集
24, 25.	ユゴー集 I・II
26.	デュマ父子集
27, 28.	ヴェルヌ集 I・II
29.	ドーズ集
30.	ゾラ集
31, 32.	モーパッサン集 I・II
33.	フランス文学集
ドイツ編 全 2 巻 揃 30,000 円	
34.	ゲーテ／ハイネ集
35.	シラー集
ロシア編 全 10 巻 揃 150,000 円	
36.	プーシキン／レールモントフ集
37.	ゴーゴリ集
38, 39.	トルストイ集 I・II
40, 41.	ツルゲーネフ集 I・II
42, 43.	チェーホフ集 I・II
44.	ゴーリキー集
45.	ドストエフスキー集
北欧・南欧編 各巻 15,000 円	
(デンマーク)	46. アンデルセン集
(ノルウェー)	47. イブセン集
(スウェーデン)	48. ストリンドベリ集
(ベルギー)	49. メーテルリンク集
(イタリア)	50. イタリア文学集

配本・刊行一覧

回	収録巻	刊行	ISBN
第 1 回	1・6・19・27・46	(1996.6)	4-7568-0270-2
第 2 回	2・10・20・24・40	(1996.10)	4-7568-0310-5
第 3 回	3・8・18・26・41	(1997.4)	4-7568-0311-3
第 4 回	4・17・28・31・38	(1997.10)	4-7568-0312-1
第 5 回	12・15・25・45・47	(1998.5)	4-7568-0313-X
第 6 回	9・16・30・34・42	(1998.11)	4-7568-0314-8
第 7 回	7・11・29・39・49	(1999.5)	4-7568-0315-6
第 8 回	5・22・32・35・36	(1999.12)	4-7568-0316-4
第 9 回	13・23・37・43・50	(2000.4)	4-7568-0317-2
第 10 回	14・21・33・44・48	(2000.10)	4-7568-0318-0
第 11 回	別巻 1・2	(2001.5)	4-7568-0319-9

*表示価格は本体(税別)

全 50 巻・別巻 2

(各巻)
本体 15,000円
(別巻を除く)

ご注文
チェック
✓

巻	書名 (頁数)	ISBN
1	シェイクスピア集 I (360 頁)	978-4-86688-111-9
2	シェイクスピア集 II (380 頁)	978-4-86688-112-6
3	シェイクスピア集 III (410 頁)	978-4-86688-113-3
4	シェイクスピア集 IV (450 頁)	978-4-86688-114-0
5	スコット／ブロンテ集 (380 頁)	978-4-86688-115-7
6	ディケンズ集 (430 頁)	978-4-86688-116-4
7	ステイーブンソン集 (400 頁)	978-4-86688-117-1
8	ドイル集 (380 頁)	978-4-86688-118-8
9	コリンズ集 (350 頁)	978-4-86688-119-5
10	ワイルド集 (390 頁)	978-4-86688-120-1
11	サッカレー／キャロル集 (380 頁)	978-4-86688-121-8
12	キプリング集 (370 頁)	978-4-86688-122-5
13	十八世紀イギリス文学集 (360 頁)	978-4-86688-123-2
14	リットン集 (430 頁)	978-4-86688-124-9
15	イギリス詩集 I (390 頁)	978-4-86688-125-6
16	イギリス詩集 II (390 頁)	978-4-86688-126-3
17	アーヴィング集 (310 頁)	978-4-86688-127-0
18	ホーソーン集 (360 頁)	978-4-86688-128-7
19	ポー集 (390 頁)	978-4-86688-129-4
20	マーク・トウェイン集 (370 頁)	978-4-86688-130-0
21	バーネット集 (320 頁)	978-4-86688-131-7
22	アメリカ詩集 (320 頁)	978-4-86688-132-4
23	モリエール集 (380 頁)	978-4-86688-133-1
24	ユゴー集 I (450 頁)	978-4-86688-134-8
25	ユゴー集 II (440 頁)	978-4-86688-135-5
26	デュマ父子集 (400 頁)	978-4-86688-136-2
27	ヴェルヌ集 I (380 頁)	978-4-86688-137-9
28	ヴェルヌ集 II (410 頁)	978-4-86688-138-6
29	ドーズ集 (370 頁)	978-4-86688-139-3
30	ゾラ集 (400 頁)	978-4-86688-140-9
31	モーパッサン集 I (390 頁)	978-4-86688-141-6
32	モーパッサン集 II (400 頁)	978-4-86688-142-3
33	フランス文学集 (370 頁)	978-4-86688-143-0
34	ゲーテ／ハイネ集 (430 頁)	978-4-86688-144-7
35	シラー集 (350 頁)	978-4-86688-145-4
36	プーシキン／レールモントフ集 (360 頁)	978-4-86688-146-1
37	ゴーゴリ集 (380 頁)	978-4-86688-147-8
38	トルストイ集 I (360 頁)	978-4-86688-148-5
39	トルストイ集 II (380 頁)	978-4-86688-149-2
40	ツルゲーネフ集 I (390 頁)	978-4-86688-150-8
41	ツルゲーネフ集 II (360 頁)	978-4-86688-151-5
42	チェーホフ集 I (340 頁)	978-4-86688-152-2
43	チェーホフ集 II (350 頁)	978-4-86688-153-9
44	ゴーリキー集 (440 頁)	978-4-86688-154-6
45	ドストエフスキー集 (370 頁)	978-4-86688-155-3
46	アンデルセン集 (340 頁)	978-4-86688-156-0
47	イブセン集 (470 頁)	978-4-86688-157-7
48	ストリンドベリ集 (310 頁)	978-4-86688-158-4
49	メーテルリンク集 (380 頁)	978-4-86688-159-1
50	イタリア文学集 (440 頁)	978-4-86688-160-7
別巻1	明治期翻訳文学総合年表 (360 頁)	別巻・2 巻揃 (分売不可) 4-7568-0319-9
別巻2	総目次・総索引 (290 頁)	揃 35,000 円

全 50 巻・別巻 2 総約 19,800 頁

明治翻訳文学全集 《翻訳家編》

各巻分売可

★残部極少の巻は分売できかねる場合があります。ご了承ください。

全 20 巻 揃(本体) 300,000 円

全 20 巻			(各巻) 本体 15,000円	チエツク 文庫
巻	書名(頁数)	ISBN		
1	三遊亭円朝集 (310 頁)	978-4-86688-161-4		
2	福地桜痴・益田克徳集 (470 頁)	978-4-86688-162-1		
3	井上勤集 (460 頁)	978-4-86688-163-8		
4	坪内逍遙集 (350 頁)	978-4-86688-164-5		
5	森田思軒集 I (370 頁)	978-4-86688-165-2		
6	森田思軒集 II (370 頁)	978-4-86688-166-9		
7	黒岩涙香集 (380 頁)	978-4-86688-167-6		
8	森鷗外集 I (380 頁)	978-4-86688-168-3		
9	森鷗外集 II (390 頁)	978-4-86688-169-0		
10	二葉亭四迷集 (360 頁)	978-4-86688-170-6		

全 20 巻			(各巻) 本体 15,000円	チエツク 文庫
巻	書名(頁数)	ISBN		
11	原抱一庵集 (330 頁)	978-4-86688-171-3		
12	尾崎紅葉・小栗風葉集 (320 頁)	978-4-86688-172-0		
13	内田魯庵・嵯峨の屋お室集 (350 頁)	978-4-86688-173-7		
14	馬場孤蝶集 (400 頁)	978-4-86688-174-4		
15	松居松葉集 (400 頁)	978-4-86688-175-1		
16	田山花袋・国木田独歩集 (300 頁)	978-4-86688-176-8		
17	上田敏集 (340 頁)	978-4-86688-177-5		
18	森嶋峰・佐藤紅緑集 (380 頁)	978-4-86688-178-2		
19	草野柴二・押川春浪集 (360 頁)	978-4-86688-179-9		
20	小山内薫集 (320 頁)	978-4-86688-180-5		

配本・刊行一覧 * このセットでもお求めになります。

全 20 巻 総約 7,350 頁

回	収録巻	刊行	ISBN	本体価格
第 1 回	4・5・8・10・19	(2002.1)	4-283-00199-6	75,000 円
第 2 回	1・3・9・12・13	(2002.6)	4-283-00200-3	75,000 円
第 3 回	7・11・14・15・20	(2003.3)	4-283-00201-1	75,000 円
第 4 回	2・6・16・17・18	(2003.7)	4-283-00202-X	75,000 円

原作者名索引

・太字は《新聞雑誌編》、〈 〉は《翻訳家編》の巻数を示す。

アーヴィング **17**
アクサーコフ 〈13〉
アディソン 〈4, 5〉
アフデーフ 〈13〉
アブレイアス 〈6〉
(アラビアン・ナイト) 〈16〉
アラルコン 〈17〉
アルテンベルク 〈9〉
アンデルセン **46**, 〈13, 16〉
アンドレーエフ 〈9, 17, 19〉
イエイツ 〈17, 20〉
イブセン **47**
ヴィード 〈9〉
ヴェルヌ **27, 28**, 〈3, 6〉
ヴェルハーレン 〈17〉
ヴェルレーヌ 〈16, 17〉
ヴォルテール 〈13〉
ウスペンスキー 〈20〉
エインズワース 〈4〉
エッチワース 〈5, 11〉
エレディア 〈17〉
エンゲル 〈5〉
オオパネル 〈17〉
ガポリオ 〈7〉
キーツ **15**
キプリング **12**
キャロル **11**
クライゲル 〈9〉
クライスト 〈8〉
ロルフ・クリソン 〈11〉
グリム 〈12〉
クルイローフ 〈13〉
クレーガー 〈9〉
(ハイド・) グレゴリー合作 〈20〉
ゲーテ **34**
ゴーゴリ **37**
ゴースキー **44**, 〈16, 17〉
ゴールドスミス **13**

コールリッジ **15**
(コザック伝説) 〈14〉
コリツォフ 〈13〉
コリンズ **9**, 〈11〉
ゴンチャロフ 〈13〉
ザゴースキン 〈13〉
サッカレー **11**, 〈7〉
シェイクスピア **1, 2, 3, 4**, 〈19
(ラム)〉
シェリー **15**
シェリダン 〈12〉
シェンキエヴィッチ 〈14, 16〉
ジュコフスキー 〈13〉
シュニッツラー 〈9〉
シュビン 〈8〉
シュミットボン 〈9〉
シュラーフ 〈9〉
ジョー 〈9, 15, 18〉
ジョンソン **13**
シラー **35**, 〈13〉
スーヴェストル 〈5〉
スコット **5**, 〈4〉
ステイーブンソン **7**, 〈17, 19〉
ストリンドベリ **48**
ルイ・ストロング 〈11〉
セルバンテス 〈15〉
ゾラ **30**, 〈12, 14〉
ダヌンツィオ 〈12〉
ダンテ **50**, 〈17〉
チェーホフ **42, 43**, 〈12, 14, 20〉
ツルゲーネフ **40, 41**, 〈10, 12,
13, 14, 16, 19〉
ディケンズ **6**
デーメル 〈9〉
テニソン **16**, 〈20〉
デフォー **13**
デュマ父子 **26**
デュメル 〈9〉

ド・クインゼ 〈17〉
ドイル **8**, 〈11, 18〉
ドーデ **29**, 〈8, 12, 14, 16〉
ドストエフスキー **45**, 〈9〉
ドミートリエフ 〈13〉
トルストイ **38, 39**, 〈13, 19〉
ノヴァーリス 〈17〉
ブレット・ハート 〈8〉
バーネット **21**
ハイゼ 〈16〉
ハイド・(グレゴリー) 合作 〈20〉
ハイネ **34**
バイロン **15**, 〈14〉
ハウフ 〈8〉
ハウプトマン 〈4, 9, 20〉
ハックレンデル 〈8〉
バルザック **33**, 〈14〉
ハンス・キイゼル 〈9〉
ヒッペル 〈9〉
ブーシキン **36**
ブルージェ 〈14, 16〉
フォール 〈17〉
ブラウニング 〈17〉
フランス **33**
ブリュダム 〈17〉
フルダア 〈12〉
ブレット・ハート 〈8〉
フレンツェル 〈8〉
フローベール **33**
ブロンテ **5**
ペーコン 〈5〉
ベルジェエ 〈9〉
ホイットマン **22**
ポー **19**
ホーソーン **18**
ボードレール 〈17〉
ボッカッチョ **50**, 〈12〉
ホフマン 〈8〉

ホフマンスタール 〈9〉
ホルツ 〈9〉
マアエール 〈17〉
マーク・トウェイン **20**, 〈11〉
マラルメ 〈17〉
ミッチェル 〈16〉
ミュッセ 〈17〉
メーテルリンク **49**, 〈17, 18,
20〉
モーパッサン **31, 32**, 〈1, 11, 12,
13, 14, 18, 20〉
モリエール **23**, 〈19〉
モレアス 〈17〉
ユゴー **24, 25**, 〈2, 18〉
ラーゲルレーヴ 〈9, 20〉
ラフォルグ 〈17〉
ランボー 〈17〉
リール 〈17〉
リチャードソン **13**
リットン **14**, 〈2, 4〉
リルケ 〈9〉
ルイ・ストロング 〈11〉
ルードヴィヒ 〈8〉
ルスト 〈9〉
レールモントフ **36**
レッシング 〈8〉
レニエ 〈17〉
ローデンバック 〈17〉
ロセッティ **16**, 〈17, 20〉
ロチ 〈17〉
ロルフ・クリソン 〈11〉
ロングフェロー **22**
ワーズワス **15**
ワッセルマン 〈9〉
ワイルド **10**

“翻訳”の集成——“いま”に直結する明治文化の遺産

明治翻訳文学全集

編集 川戸道昭・中林良雄・榊原貴教

*

近代・現代文学、比較文学・文化、言語、社会、歴史、思想、教育、芸術……
日本と世界を再検証する窓——“翻訳”という視座はここに確立した！

《新聞雑誌編》

全 50 巻・別巻 2



《翻訳家編》

全 20 巻



【体裁】B5判（257×182^{mm}）・上製・クロス装

*《新聞雑誌編》編集協力

《新聞雑誌編》

制作 ナダ出版センター
発行 大空社
1996-2001 刊

《翻訳家編》

発行 大空社
ナダ出版センター
2002-2003 刊

図書館に全巻を
個人には希望の巻を

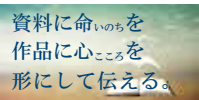
各巻分売可

★残部極少の巻は分売で
きかねる場合があります。
ご了承ください。

（価格は22、23ページ参照）

全巻揃
残部
数組

（2025.9）



学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:042-306-3383 FAX:042-306-3384
（〒189-0001）東京都東村山市秋津町 5-24-13-101